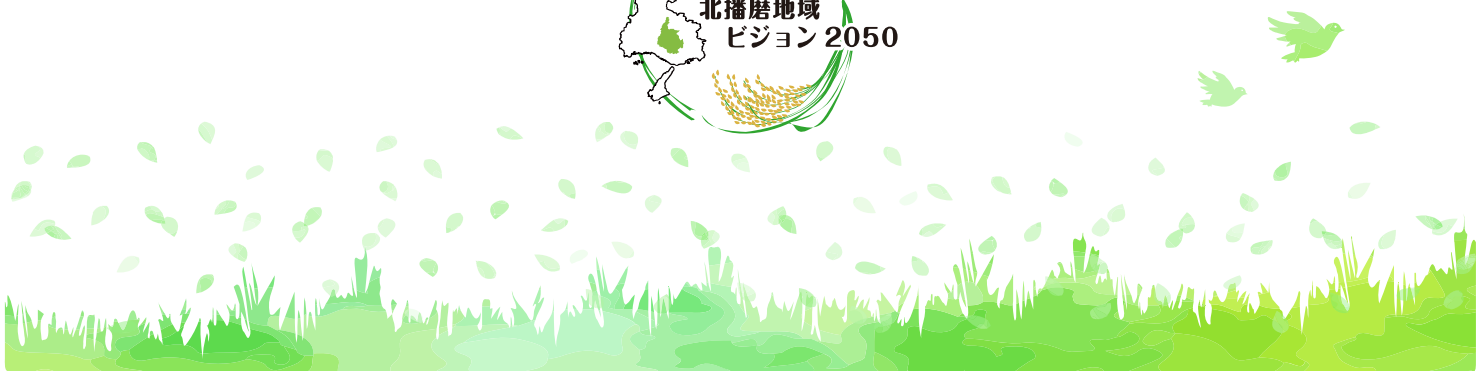




北播磨地域ビジョン 2050

北播磨新地域ビジョン検討委員会・兵庫県北播磨県民局



北播磨地域ビジョン2050目次



第1章 新しい地域ビジョンの策定

1～4ページ

新しい地域ビジョンとは？

- 2050年を展望した新しい「地域ビジョン」を策定する目的や経緯



第2章 北播磨地域の現状

5～26ページ

北播磨地域の今の姿とは？

- 2050年も想定しながら現状を分析しています
- 現状分析から地域ビジョンを考えるためのキーワードを示しています



第3章 北播磨の将来に対する地域の皆さんの思い

27～29ページ

地域の皆さんの2050年への思いとは？

- 地域の皆さんは、未来に対してどのようなことを期待しているのか、ご意見を紹介しています
- 皆さんの意見を第2章で抽出したキーワードごとに整理しています



第4章 地域の方向性

30～32ページ

北播磨地域が目指す姿とは？

- 地域の現状と地域の皆さんの思いから、北播磨が進む方向性を5つの柱立てで整理しています



第5章 北播磨地域ビジョン2050の目指す将来像

33～54ページ

2050年の北播磨とは？ - 5つの柱 -

- 地域の皆さんと共有しともに目指したい、2050年の北播磨の姿を示しています
- 将来像を実現するための5つの柱の内容を示しています
- 5つの柱ごとに地域の皆さんが描く、北播磨での2050年の具体的な生活シーンを日記として掲載しています

第1章 新しい地域ビジョンの策定

第1節 これまでの北播磨地域ビジョンの策定経緯

(1) 「北播磨地域ビジョン」の策定

北播磨地域ビジョンは、新しい世紀を迎え、地域活動に対する住民意識の高まりの中で、2010～2015年の北播磨の未来の姿を地域住民自らが「夢」(ビジョン)として描き、参画と協働の理念のもと、その実現に向け地域住民が主役で、行政を含めた様々な活動主体と連携しながら取り組むための道筋を示すものとして、2001(平成13)年2月に策定しました。

その際、ビジョンの実現に向けた目標(姿)として、北播磨の地域住民の心(ハート)が温かいことや兵庫県の中心に位置するいわば「心臓」(ハート)にあたるという地域性などを生かし、北播磨をもっと良い地域にしたいという願いを込め、地域住民が共通認識を持って取り組むことができるよう、“ひょうごのハートランド”を掲げることとしました。また、ビジョンを実現するため、率先して活動し地域住民を先導する役割を担う有志からなる「北播磨地域ビジョン委員会」(任期2年)を設置し、知事から委嘱された委員が地域ビジョンを推進することとしました。

「北播磨地域ビジョン」概要

○2030年を展望しつつ、2010～2015年を想定年次として設定

○地域の将来像「ひょうごのハートランド」

「交通の要衝や生産の拠点である中原の地域」「人や物、情報の動きの中心となる心臓のような地域」「夢や意欲という志の集まる地域」という、将来の北播磨のイメージを表す言葉を提案

○取組の方向性「4つの願い・4つの目標」

- ・「だれにも“心地いい”ハートランド」小さな単位から始まる安全・安心のあたたかい地域を実現しよう
- ・「いつも“楽しい”ハートランド」人が育ちだれもが自分らしさを選択する自分創造地域を実現しよう
- ・「いつまでも“美しい”ハートランド」水と緑を守り、活かし、伝える循環型地域を実現しよう
- ・「どこよりも“力強い”ハートランド」新しい豊かさ活力を生み出す産業元気地域を実現しよう

(2) 「北播磨地域ビジョン2020」の策定

2001年に北播磨地域ビジョンを策定した後、少子高齢化の急速な進展に伴う本格的な人口減少時代の到来や国際化・グローバル化、地球温暖化等、地域社会を取り巻く環境の変化が進んだことなどから、「北播磨地域ビジョン」の点検、見直しを行い、2011(平成23)年11月に2020年の北播磨の姿を描く「北播磨地域ビジョン2020」を策定しました。策定にあたっては、北播磨地域ビジョン委員会や「地域夢会議(地域の皆さんと意見交換する会議)」での意見、地域内の様々なグループへのヒアリング、アンケート等を集約し、実現すべき目標(姿)として、“ひょうごのハートランド”を引き継ぐこととしました。

「北播磨地域ビジョン2020」概要

○2040年を展望しつつ、2020年頃を目標年次として想定

○地域の将来像「ひょうごのハートランド」(継承)

北播磨の魅力ある地域資源を十分活かし、「北播磨らしさ」を発揮させる。県民、団体、行政など、様々な主体の取組を促す地域づくりの指針とする。

○5つの地域像

「交流が広がる」「まちむら交流」で活力を生む地域

「生活(くらし)の絆が深まる」家族・地域・生活(くらし)の絆を深めるとともに、絆の力で安全・安心を支える地域

「文化が花開く」芸術・文化を暮らしに活かす地域

「恵み豊かな環境が持続する」北播磨が持つ豊かな自然・生態系の調和した暮らしが持続する地域

「元気な産業が興る」多様な産業が活性化しだれもが生きがいを持って働ける地域

第2節 「北播磨地域ビジョン2020」の実現に向けた活動について

(1) 北播磨地域ビジョン委員会活動の概要

北播磨地域ビジョン委員会の中に「北播磨地域ビジョン2020」で掲げる5つの地域像に沿って5つの分科会を設置し、2011年以降現在に至るまで5期(1期2年)10年にわたり様々な活動を行ってきました。

第6期～10期北播磨地域ビジョン委員数(5期分の延べ委員数)320名

(参考:第1期～5期北播磨地域ビジョン委員数(5期分の延べ委員数)515名)

《第9期、第10期北播磨地域ビジョン委員活動風景》



◆2019年3月 北播磨の音風景50選J-フレット
(文化が花開く分科会)

◆2020年10月 ふれあいの祭典
(生活の絆が深まる分科会)

◆2021年3月 有機農業講座
(元気な産業が興る分科会)

◆2021年7月 川ゴミ調査
(恵み豊かな環境が持続する分科会)

(2) 北播磨地域ビジョン委員会活動に関連する県民意識調査の動向

「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査(県民アンケート)による2010年と2020年の比較

区分 (分科会)	県民意識調査結果(主なもの)
都市との交流の拡大 (交流が広がる)	県内どこへでも便利に移動できると思う人の割合 (24.6→28.7)
支え合う地域システムの構築 (生活の絆が深まる)	頼りになる知り合いが近所にいる人の割合 (58.9→68.7)
伝統文化、歴史の伝承 (文化が花開く)	住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合 (48.2→62.6)
生態系が調和する環境づくり (恵み豊かな環境が持続する)	山林や川、海などの自然環境を守るための取組に参加している人の割合 (※17.3→31.6)
未来を拓く「農」づくり (元気な産業が興る)	地元や県内の農林水産業に活気が感じられると思う人の割合 (※8.9→20.2)

※は2013年から調査開始

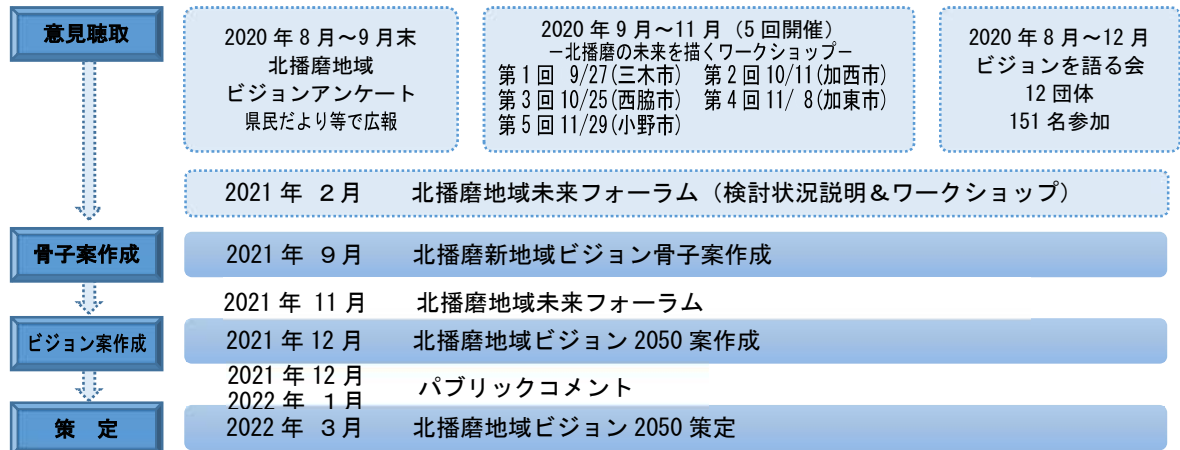
第3節 「北播磨地域ビジョン2050」の策定

(1) 「北播磨地域ビジョン2050」策定の趣旨

現行の全県ビジョンである「21世紀兵庫長期ビジョン」の策定から20年が経過するとともに、次節で述べる社会潮流など本県を取り巻く環境も大きく変化していくと想定されることから、現行のビジョンを見直し、“2050年の姿”を描く「新しい全県ビジョン」を策定することとなり、それに合わせ、北播磨地域においても、“2050年の北播磨の姿”を描く「北播磨地域ビジョン2050」をビジョン委員も含め地域住民の皆さんとともに議論を行い、その意見を踏まえて策定することとしました。

(2) 新しい地域ビジョンの策定スキーム

策定主体:北播磨新地域ビジョン検討委員会 (2020年7月発足)・起草部会 (2021年1月設置)



◆2020年9月～11月北播磨の未来を描くワークショップ

◆2020年8月～12月 ビジョンを語る会



◆2021年2月 令和2年度北播磨地域未来フォーラム

◆2021年11月 令和3年度北播磨地域未来フォーラム(オンライン開催)

(3) 「北播磨新地域ビジョン検討委員会」の設置及び検討

「北播磨地域ビジョン2050」の策定に向け、有識者や地域団体関係者、地域の市町担当者等で構成する「北播磨新地域ビジョン検討委員会」を、同委員会に新地域ビジョン骨子案やビジョン案等の作成を行う「起草部会」を設置して、「北播磨地域ビジョンアンケート」や「ビジョンを語る会」などでの意見を踏まえ、「北播磨地域ビジョン2050」の内容について検討し取りまとめを行いました。



◆2020年7月 第1回検討委員会



◆2021年6月 第4回起草部会



◆2021年7月 第4回検討委員会

《新しい地域ビジョンの検討実績》

	日 程	検討委員会	検 討 内 容
20 年 度	7月4日(土)	第1回検討委員会	策定スケジュール予定、アンケート内容整備
	9月18日(金)	第1回書面会議	アンケート結果(対象者)の意見照会
	11月19日(金)	第2回書面会議	アンケート結果(一般)の意見照会
	12月22日(火)	第2回検討委員会	アンケート結果に対する意見の共有
	1月26日(火)	第3回検討委員会	県民意見・地域デザイン報告、新ビジョンの構成
	2月20日(土)	未来フォーラム	県民意見との意見交換
	2月24日(水)	第1回起草部会	県民意見からの共通する思いの整理
21 年 度	3月18日(木)	第2回起草部会	北播磨地域の現状の整理 将来像を考えるうえでの社会潮流の整理
	4月26日(月)	第3回起草部会	新地域ビジョンの目指す方向性について
	6月4日(金)	第4回起草部会	構成の変更と新地域ビジョン骨子案について
	7月19日(月)	第4回検討委員会	新地域ビジョン骨子案協議
	10月4日(月)	第5回起草部会	新地域ビジョン素案について
	11月1日(月)	未来フォーラム	新地域ビジョン骨子案について
	11月30日(火)	第5回検討委員会	地域ビジョン2050案協議

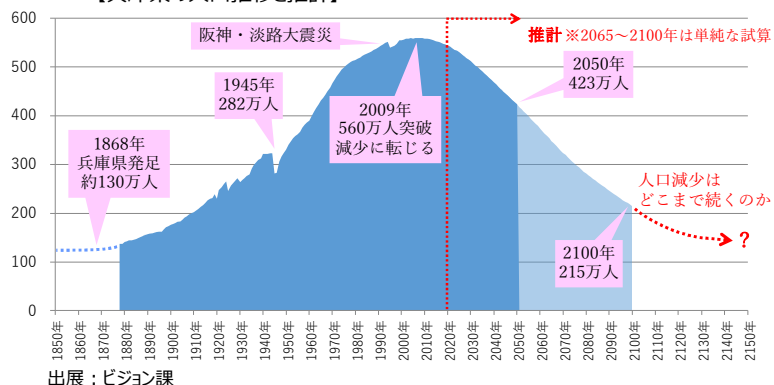
第4節 「北播磨地域ビジョン2050」の策定にあたって考慮すべき社会潮流

30年後の北播磨の姿を描く「北播磨地域ビジョン2050」の策定にあたっては、人口動向等についての共通認識を持ったうえで、地域住民の皆さんがそれぞれの生活実態も踏まえ、北播磨地域の抱える課題や将来のあるべき姿を考えることが重要となるため、今後想定される社会潮流について整理しました。

《新しい地域ビジョンの検討にあたり考慮すべき主な社会潮流》

項 目	主 な 内 容
人口減少・超高齢化	本県人口 550 万人→420 万人(24%減)、高齢者人口 27%→40%
自 然 の 脅 威	大規模気候変動、災害の激甚化、南海トラフ地震、感染症リスクの高まり
テクノロジーの進化	AI(人工知能)・IoT(モノのインターネット)技術の進化、自動運転等の普及、医療の進歩
世界の成長と一体化	日本の GDP3位→5位、人の移動の活発化(移民も増加)
経済構造の変容	経済のデジタル化、取引費用の低廉化
価値観と行動の変化	SDGs(持続可能性)の取組推進、ローカル志向の胎動

【兵庫県の人口推移と推計】



【全国の年平均気温の推移】



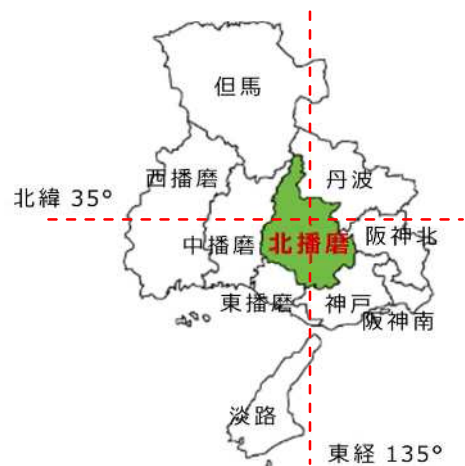
第2章 北播磨地域の現状

新しい地域ビジョンで示す 30 年後の北播磨地域のあるべき姿の検討にあたっては、北播磨地域の現状や特性などを把握することが最も重要です。そのため、この章では現状（社会潮流を踏まえ、今後想定される動向等を含む）及び北播磨の将来を考えるためのポイントとなるキーワードを整理しています。

第1節 地勢・気候

兵庫県のほぼ中央に位置し、県土の10.7%（総面積約896km²）を占めており、大阪・神戸の都市部から車で約1時間と至便な距離にあります。県下最大の河川「加古川」が地域の中央を貫流し、流域には播州平野が広がり、東条湖、翠明湖などから農業地域へ安定した水を供給する疏水（東条川疏水等）やため池が整備されています。水源機能だけでなく生態系の維持、環境保全等の役割も担っています。

このような地勢を背景に、県内の耕地面積の19.6%を占め、農林業産出額の約半数を水稻が占める県下有数の水田農業地域となっており、田園風景が広がっています。



人口 ^{※1}	26万人（4.8%）
面積	895.61km ² （10.7%）
GDP ^{※2}	1兆1,679 億円（5.5%）
市町数	5市1町

※1 推計人口2021.11.1現在

※2 令和元年度兵庫県市町民経済計算



また、瀬戸内型気候で年平均気温約14℃、年間降水量1,300mm前後、積雪は北部にわずかに見られる程度の温暖な気候にも恵まれ、田園地帯と都市化のほどよいバランスのもと、地域全体をまるごと博物館に見立てた北はりま田園空間博物館事業が展開されています。



◆北はりま田園空間博物館 総合案内所

一方で、公共交通機関が限られ、地域内の移動手段の主体が車であることから、学生や高齢者にとっては、通学や通院、買い物などの利便性が低い面があります。

社会潮流として、30年後は運転技術が不要の完全自動運転やドローンによる宅配、空飛ぶクルマの登場なども想定され、生活利便性の向上が期待されます。



◆空飛ぶクルマ



◆配送ロボットが行き交う



ビジョンを考えるためのポイント！

- ①のどかな田園風景（播州平野、田畑が多い、疏水・ため池等）
⇒ **北播磨地域の特性**
 - 田園風景（自然環境）の保全（生態系保全、農業振興等）
 - 北播磨らしい観光交流資源（北はりま田園空間博物館事業等）
- ②30年後は、運転技術が不要の完全自動運転やドローンによる宅配、空飛ぶクルマの登場などが想定され、生活の利便性向上への期待
⇒ ●生活利便性の向上

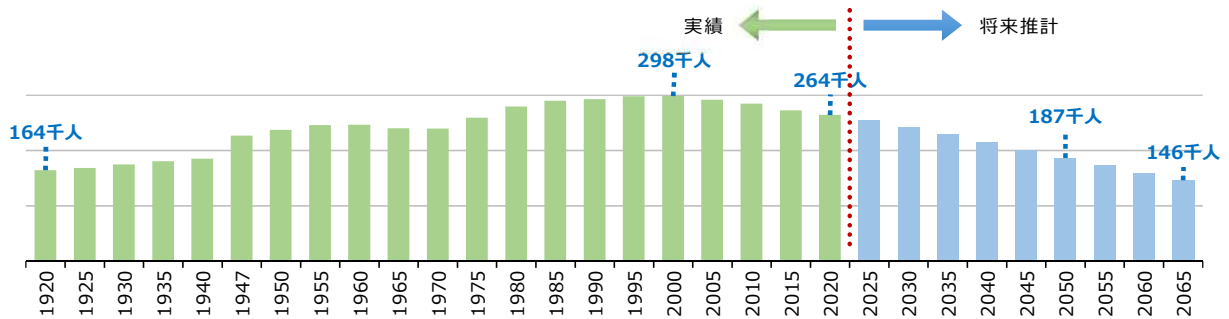
第2節 人口

北播磨管内の人口は、2000（平成12）年の約29万8千人をピークに減少傾向に移り、2020（令和2）年10月時点で、約26万4千人（全県の4.8%）と、毎年約2千人程度減少しています。さらに2050（令和32）年の管内人口は、7万7千人減の約18万7千人になると推計されています。（30年間で29%減）

【人口の推移と将来予測】

（単位：人）

市町名	1990(H2)	2000(H12)	2010(H22)	2020(R2)	2030(R12)	2040(R22)	2050(R32)
西脇市	46,220	45,718	42,802	38,673	34,713	30,004	25,436
三木市	84,445	86,117	81,009	75,294	68,089	59,753	51,230
小野市	46,007	49,432	49,680	47,562	45,237	41,783	37,966
加西市	51,784	51,104	47,993	42,700	39,712	35,289	30,414
加東市	38,270	40,688	40,181	40,645	38,764	36,195	32,865
多可町	25,745	25,331	23,104	19,261	15,576	11,913	8,685
北播磨(A)	292,471	298,390	284,769	264,135	242,091	214,935	186,595
A/B	5.4%	5.4%	5.1%	4.8%	4.7%	4.6%	4.4%
県(B)	5,405,040	5,550,574	5,588,133	5,465,002	5,118,430	4,685,716	4,230,509



出典：R2年以前は、国勢調査、R12～42年は兵庫県将来推計人口（2015～65年）（ビジョン課）

その原因は、合計特殊出生率が人口の維持に必要な2.07を下回る1.52（平成27年、全県1.48）であること、北播磨地域の県民の転出超過が平成10年以降毎年概ね1,000～1,600人程度続いていることによるものです。転出超過は15～29歳が多く、最近は特に20代女性の転出が転出全体のうち概ね4割を占めるなど、就労や進学等に伴い都市部への人口移動が進んでいると考えられます。人口減少により過疎化が進展し、小規模集落や空き家などが更に増加していくことが懸念されます。

【合計特殊出生率の推移】

（単位：人）



【北播磨の15～49歳女性人口の推移】

（単位：人）



【自然増減（転出数と転入数）の推移】（単位：人）



出典：国勢調査、推計人口年報（統計課）

【社会増減（転出数と転入数）の推移】（単位：人）



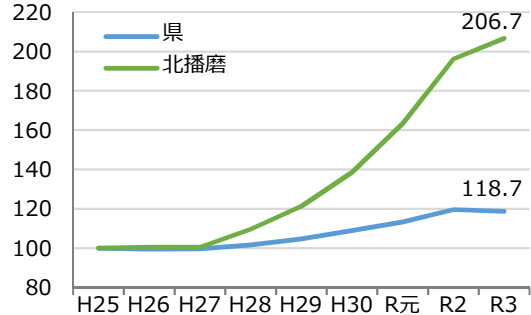
一方で、グローバル化の進展に伴い、平成25年1月時点で約3,400人であった在留外国人口は、約7,000人(令和3年1月1日)が居住するまでに至っており、この5年で倍増していることがわかります。

【外国人の人口推移】 (単位:人)

市町名	2013(H25)	2021(R3)
西脇市	407	691
三木市	967	1,956
小野市	595	904
加西市	804	1,327
加東市	486	1,858
多可町	145	300
北播磨	3,404	7,036
県	95,478	113,349

出典:住民基本台帳に基づく人口(総務省)

【外国人の人口推移(H25=100)】



出身国別では、ベトナム50.2%、中国10.2%、韓国8.4%、ブラジル7.2%、フィリピン5.0%(令和3年6月末)となっています。また、そのうち技能実習生が約2,300人で県内の約2割を占め、管内の製造業等の担い手となっています。

各市町の国際交流関係団体では、外国人の生活支援の一環として、日本語教室等を実施しています。

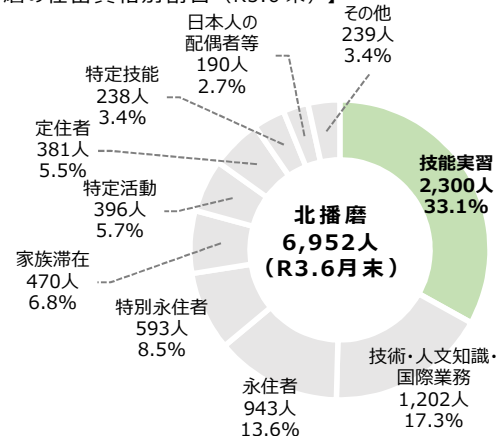
【地域別在留外国人の主な国籍(R3.6末時点)】

(単位:人)

市町名	総数	ベトナム	中国	韓国	ブラジル	フィリピン	その他
西脇市	627	247	62	142	13	59	104
三木市	2,006	630	243	233	205	118	577
小野市	928	442	50	101	93	39	203
加西市	1,272	702	196	47	119	35	173
加東市	1,809	1,306	106	45	64	51	237
多可町	310	165	55	15	5	46	24
北播磨	6,952	3,492	712	583	499	348	1,318
県	113,772	23,900	22,466	36,820	2,513	5,148	22,925

出典:在留外国人統計(法務省)

【北播磨の在留資格別割合(R3.6末)】



◆日本語教室の様子

ビジョンを考えるためのポイント!

- ③人口減少(2020年26.4万人→2050年18.7万人)、20代女性の転出超過が多い
 - ⇒●移住・定住の促進
 - 子育てしやすい環境の整備
 - コミュニティの維持(地域の絆の醸成)
 - 子ども世代のふるさと意識の醸成・教育
 - 空き家等の活用
- ④外国人の増加
 - ⇒●外国人の活躍・協働

第3節 自然環境

北播磨地域の自然環境をみると森林面積は地域面積の54.0%であり全県の66.7%を下回っていますが、森林面積のうち天然林が約7割を占めていることや、希少動植物が生息する県指定天然記念物“あびき湿原”など、自然が多く残っています。

また、笠形山千ヶ峰県立自然公園等の自然公園や、レクリエーションの場として県立播磨中央公園等の公園施設が整備され、自然の造形美が魅力の闘竜灘や岩座神（いさりがみ）の棚田、ため池、小野アルプスなどがあり、自然を身近に感じる環境にあります。このような自然環境を生かし、小学生等への環境学習やソーラーパネルの設置による環境に優しい自然エネルギー発電にも取り組んでいます。



◆県広報のPR



◆闘竜灘（加東市） ◆岩座神（いさりがみ）の棚田（多可町） ◆小野アルプス（小野市） ◆自然環境体験（西脇市）

一方で、平成28年から令和2年までの5年間の不法投棄通報件数が県内で最も多いことから、「不法投棄防止地区」を約300箇所指定し、管内約880名を超える不法投棄防止活動推進員及び自治会等と連携して、パトロールの強化などによる未然防止対策を進めています。

さらに、近年、イノシシやシカ等野生動物による農業被害の軽減を図るため、防護柵の設置や増えすぎた野生動物の生息数を減らすための捕獲等、地域ぐるみで被害防止対策を進めています。



◆不法投棄撤去作業の様子



◆被害防止対策作業の様子



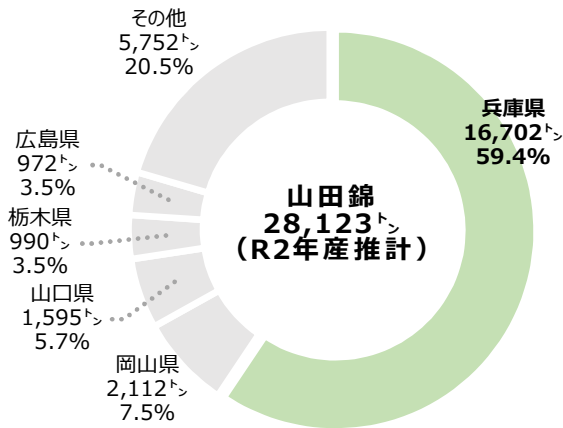
ビジョンを考えるためのポイント！

- ⑤天然林や公園等が多く、自然が豊かという一方で、不法投棄通報件数や野生動物の農業被害が多い
⇒●自然環境の維持・保全

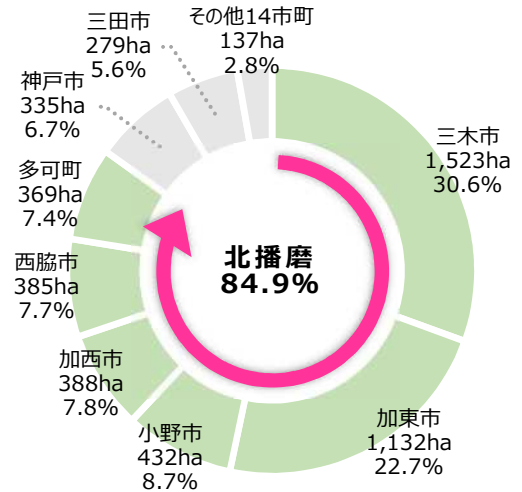
第4節 「農」と「食」

北播磨地域の田畑面積は県下で最も大きく、全国に誇る酒米「山田錦」の作付面積が県内の84.9%を占め、国内最大の生産地として、北播磨を代表する農産物となっています。

【R2年産山田錦の生産地内訳（推計値）】



【県内の山田錦作付面積内訳(R2)】



出典: 酒造好適米の生産状況 (農林水産省)、農産園芸課調べ

このほかにも、黒田庄和牛、播州百日どり、ぶどう、ハボタンなど北播磨を代表する魅力的な特産品が数多くあります。



◆酒米山田錦

◆黒田庄和牛

◆播州百日どり

◆ぶどう

◆ハボタン

その他、付加価値の高いプラチナぶどうの生産技術向上、新品種の黒枝豆「ひかり姫」や兵庫県オリジナル品種のいちご「あまクイーン」「紅クイーン」の生産振興を図るほか、加東市では「もち麦」の生産振興並びに高校生等と連携した加工品の開発に取り組む等、新たな産地ブランドの確立を目指しています。成功例としては、農産加工グループが地元農産物を使った「巻き寿司」で全国的に有名となった取組があります。



◆プラチナぶどう

◆黒枝豆「ひかり姫」

◆「あまクイーン」「紅クイーン」

◆加東市産もち麦

◆地元農産物を使用した巻き寿司

さらに、最新型の統合環境制御技術を用いた大規模な次世代施設園芸団地（加西市、3.6ha）に代表される企業的な経営や酒米の生産と日本酒醸造を同一地域で行う酒蔵など、新しい農業ビジネスモデルの展開も期待されています。



◆温室全景



◆生育されるトマト

一方で、兼業農家の割合が高く、農業従事者の高齢化などにより農業人口が減少し、耕作放棄地も増加しています。このような中で、県をはじめ関係機関が近年、新規就農者等の育成に力を入れています。

農業経営体のうち、個人経営体は7,606経営体で、10年前に比べ3,296経営体(30.2%)減少した一方、団体経営体は245経営体で52経営体(26.9%)増加しています。

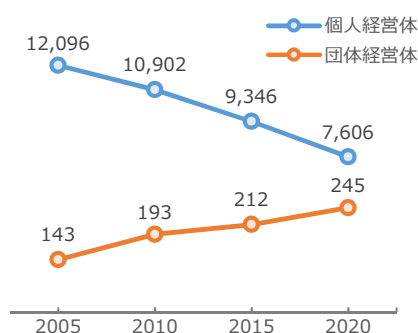
【農業経営体の推移】

(単位:経営体)

市町名	2005(H17)	2010(H22)	2015(H27)	2020(R2)
西脇市	936	831	666	595
三木市	2,545	2,424	2,145	1,869
小野市	2,004	1,766	1,507	1,172
加西市	3,013	2,664	2,307	1,776
加東市	2,384	2,219	1,920	1,624
多可町	1,357	1,191	1,013	815
北播磨(A)	12,239	11,095	9,558	7,851
A/B	18.56%	19.21%	19.96%	20.50%
県(B)	65,953	57,766	47,895	38,302

出典:農林業センサス

【北播磨の農業経営体の推移】(単位:経営体)



また、新型コロナウイルス感染症などを契機に、若い世代を中心に地方暮らしへの関心が高まるなか、就農をはじめ、「農」や「自然」をビジネスモデルのキーワードとして捉える動きが広がっています。



ビジョンを考えるためのポイント！

- ⑥ 全国に誇る酒米「山田錦」の産地で、県内一の水田農業地域。その他、黒田庄和牛、播州百日どり、ぶどう、ハボタンなどの「農」「食」関係の特産品が多い
 - ⑦ テクノロジーを活用した新しい農業ビジネスモデルが生まれている
 - ⑧ 農業人口が減少
 - ⑨ 新型コロナウイルス感染症などを契機に、若い世代の地方暮らしへの関心の高まり、就農をはじめ「農」や「自然」を新しいビジネスモデルのキーワードとして捉える動きが広がっている
- ⑥⑦⑧⑨⇒ ● 「農」と「食」の魅力づくり
- テクノロジーの活用
 - 新しい働き方・若者のフロンティアの創出
 - 起業・副業の促進
 - 移住・定住促進

第5節 防災・防犯

地球温暖化に伴う気候変動により、北播磨地域においても風水害が頻発・激甚化しており、さらに2050年までに南海トラフ地震が発生する可能性が高いと予測されています。常日頃から災害に対する備えを怠らないことが必要です。

《気候変動》

亜熱帯化する兵庫 ～気候変動の幅広い影響～

- 夏が長期化し、真夏の暑さが耐え難い水準に
- 夏の昼間の活動は困難に。学校や事業所の夏季休業は長期化
- 県民はますます空調に依存した生活に移行
- 冬は暖かくなり過ごしやすく

<21世紀末の兵庫県内の気候> (気象庁予測)

- 年平均気温 4.3℃上昇 ※神戸が今の名瀬(奄美大島)並に
- 神戸の猛暑日43日(40日増)、熱帯夜100日(60日増)

気候変動

- 気温上昇
- 海面上昇
- 降水パターンの変化
- 極端な気象の増加

県民生活への気候変動の影響

自然災害 ・洪水、内水氾濫の増加 ・高潮、高波の増加 ・斜面崩壊、土石流の増加 ・強風の増加	生活 ・熱中症リスクの増加 ・感染症リスクの増加 ・冬季の暖房費用の軽減 ・伝統行事の時期の変化	水資源・水環境 ・無降水日の増加 ・降雪量の減少 ・水質の悪化 ・海水温の上昇
産業・経済活動 ・食品産業への影響 ・サプライチェーンの途絶 ・レジャーへの影響 ・労働生産性の低下	農林水産業 ・適合品種・魚種の変化 ・農業用水の不足 ・病害虫の発生 ・生産基盤・施設の障害	自然生態系 ・砂浜の消失 ・藻場の衰退 ・生物季節の変化 ・虫の生息地変化

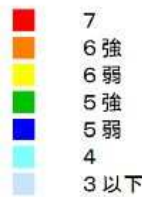
《南海トラフ地震》

発生確率：今後30年以内に70～80% (M8～9クラス)
⇒2050年までに発生している可能性が高い。

【震度予測図】

	日本全体	兵庫県	北播磨
死者数	32.3万人	29,100人	109人
全壊棟数	238.6万棟	3.7万棟	207棟
被害額	215兆円	5.5兆円	—

地表震度



首都直下地震の発生も危惧されている。
発生確率：今後30年以内に70%程度 (M7クラス)

《災害に備えた事前の心構え》

常日頃から身の周りの危険地域を知っておくなど、防災情報の収集に努めるツールとしてハザードマップを整備

兵庫県 CGハザードマップ



兵庫県ハザードマップ

北播磨地域のここ数年の大きな災害としては、平成 30 年 7 月の豪雨（床上・床下浸水約 100 件、農地・ため池等の破損約 700 箇所、農産物合わせて被害額約 36 億 6 千万円）があります。加古川流域では以前から大雨による水害にたびたび見舞われています。

今後さらに、地球温暖化に伴い異常気象が頻発すると予測されており、大規模な風水災害が発生するリスクが高まっています。北播磨ではこれまで、自主防災組織（令和 2 年組織率 99.9%）による減災活動や、県下一の団員数（平成 30 年、約 6,600 名）による消防団活動などが重要な役割を果たしてきましたが、自主防災組織力の低下や消防団員数の減少など、防災・減災対策への懸念が生じています。

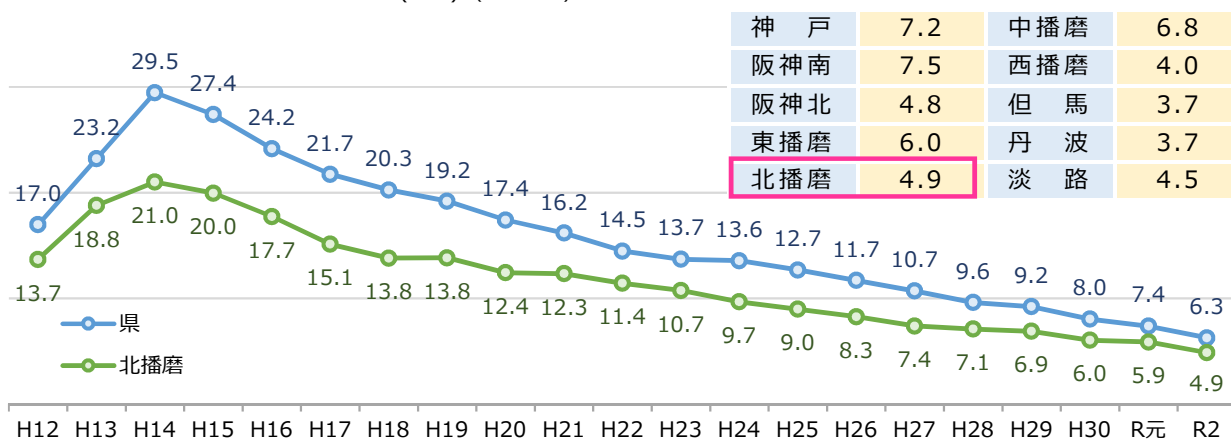
また、兵庫県では大雨による浸水被害を減らすため、総合治水条例を制定し、対策に取り組んでいます。ため池や水田等が大雨時に雨水を一時的に貯留・浸透させ洪水被害を軽減させる役割も果たすことから、防災面からもため池や水田等を守っていくことが重要です。

犯罪の面では、人口千人あたりの刑法犯認知件数は全県値を下回っていますが、全国的にはインターネットの普及に伴いサイバー犯罪の増加や、SNS 上でのトラブルの増加など多様化しています。

その他、急増する児童虐待相談に対応するため、令和 3 年 4 月に加東こども家庭センターを設置して市町等と連携して取組を強化しています。

【人口千人あたりの刑法犯認知件数(R2)】(単位:件)

※地域別人口千人あたりの刑法犯認知件数(R2)



出典:犯罪統計書(兵庫県警察本部)



ビジョンを考えるためのポイント!

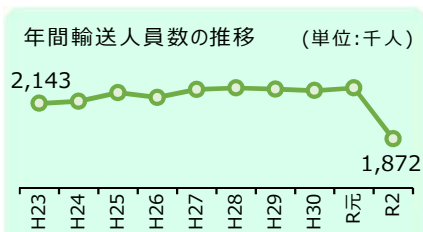
- ⑩ 加古川流域の大雨等による災害時には、自主防災組織の減災活動、消防団活動、水田等の貯水機能が一定の役割を果たしてきたが、自主防災組織力の低下や、消防団員数、水田等の面積が減少傾向
 - ⑪ 犯罪認知件数は県内を下回っているが、インターネットの普及に伴うサイバー犯罪等が増加
- ⑩⑪⇒● 防災・防犯意識の向上

第6節 交通インフラ

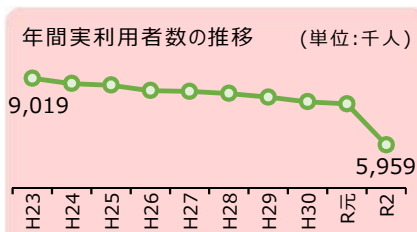
北播磨の公共交通網は、JR加古川線や神戸電鉄粟生線、北条鉄道の3線が粟生駅で連絡し鉄道ネットワークを形成しているほか、地域内交通としてコミュニティバス等が役割を担っており、さらに予約に応じた運行が可能なデマンドバスの導入も進んでいます。また、大阪・神戸を結ぶ高速バスも運行しています。鉄道3線の直近10年間の利用状況は、JR加古川線は微増傾向、神戸電鉄粟生線は減少傾向で、北条鉄道は近年横ばい傾向となっています。加えて新型コロナウイルス感染症の発生によるテレワークの進展などにより、地域交通を取り巻く公共交通環境は大変厳しい状況にあります。

公共交通機関は、子どもや高齢者、障害者、妊婦等、地域住民の重要な移動手段であり、また観光客の回遊性向上による人的交流の活性化には欠かせません。引き続き、利用促進の継続的な取組などを進め、公共交通機関を維持していくことが今後とも必要となっています。

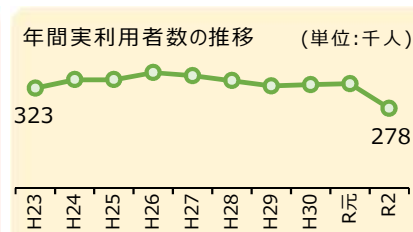
【JR加古川線】



【神戸電鉄粟生線】



【北条鉄道】



出典:JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会総会資料

一方、道路については、中国自動車道及び山陽自動車道が東西に横断し、舞鶴若狭自動車道と神戸淡路鳴門自動車道とを結ぶ高速道路網も整備されており、東西南北の結節点として交通利便性が高い地域です。

また、一般道路については、国道175号や372号が地域の生活を支える道路として重要な役割を果たしていますが、それに加えて令和6年度の全線開通に向けて東播磨地域と北播磨地域を結ぶ東播磨道（地域高規格道路）の整備が進められており、開通後には交通渋滞の解消のほか、東播磨地域との救急医療や生活面での連携が期待されています。



社会潮流として、将来は運転技術が不要の完全自動運転時代が到来すると予測され、今後はそれらも見据えた道路等のインフラ整備を進められていくことが期待されます。

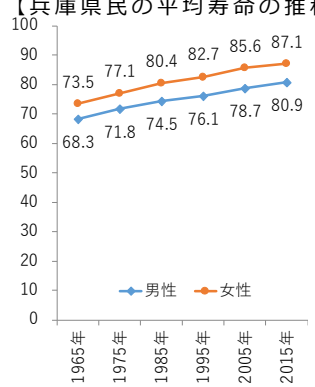
ビジョンを考えるためのポイント！

- ⑫ JR加古川線等の公共交通機関は、子どもや高齢者、障害者、妊婦等、地域住民の重要な移動手段であり、観光客の回遊性向上による人的交流の活性化にも不可欠
 - ⑬ 北播磨地域は、高速道路網における東西南北の結節点で利便性が高い
 - ⑭ 将来、運転技術が不要の完全自動運転時代の到来が期待される
- ⑫⑬⑭⇒●交通インフラの維持・整備

第7節 少子高齢化・医療

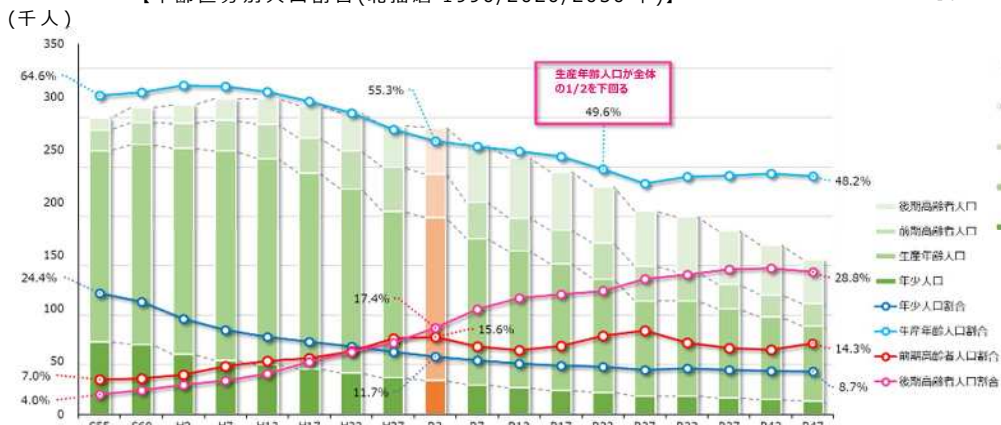
北播磨地域の65歳以上の高齢化率（令和3年2月現在）は、32.8%で全県の31.4%を上回っています。国の平均寿命予測では、医療技術の進歩等もあり、2050（令和32）年には男性で84.02歳（2015（平成27）年80.75歳）、女性で90.40歳（2015（平成27）年86.98歳）とそれぞれ3歳以上伸びるとされており、超高齢化が進んでいくと予測されています。このことから、要支援・要介護認定者数も大幅に増加すると見込まれ、高齢者福祉の充実、医療の進歩が必要となります。

【兵庫県民の平均寿命の推移】



また、合計特殊出生率は、人口の維持に必要な2.07を下回る1.52（平成27年、全県1.48）となっており、少子化が続いています。今後出生率が好転しない限り、生産年齢人口は大幅に減り続けることとなります。2050（令和32）年には北播磨地域の人口は7万7千人減の約18万7千人となり、生産年齢人口も現在の約14万6千人から約9万人に減少すると推計されているため、労働力の確保やコミュニティの維持の課題が指摘されています。

【年齢区分別人口割合(北播磨 1990/2020/2050年)】



【北播磨 30年前後の年齢区分別人口割合】



出典：H27年以前は、国勢調査、R2年は住民基本台帳に基づく人口（総務省）、R7～47年は兵庫県将来推計人口（ビジョン課）

このため、高齢者を介護・福祉の現場や孫・子ども世代等との交流、ふるさとの歴史等を伝える教育といったコミュニティの維持・絆づくりなどで活躍する社会の担い手として捉えることが必要になると考えられます。

実際に、日本老年医学学会などが2017（平成29）年に75歳以上を高齢者の新たな定義とすべきとの提言を行っています。



ビジョンを考えるためのポイント！

- ⑮ 2050年には平均寿命が男性で84.02歳（2015年80.75歳）、女性で90.40歳（2015年86.98歳）とそれぞれ3歳以上伸び、超高齢化が進む
 - ⇒ ● 高齢者福祉・医療の充実
- ⑯ 少子超高齢化により、生産年齢人口が減少し、高齢者を社会の担い手として捉える必要
 - ⇒ ● 新たな働き方（コミュニティビジネス等）
 - 多世代交流
 - 子ども世代のふるさと意識の醸成・教育
 - 地域の絆の醸成

第8節 地域の絆・多世代交流

北播磨地域各市町・地区で、住民同士の交流・助け合い（絆づくり）、イベント開催等による賑わいづくりなど様々な地域活動が展開されています。



◆はりまのちっちゃな台所サポート委員会（加西市）

加西市では、地元住民や県立播磨農業高校生と連携して、同市北条町の町家を改修したゲストハウス、飲食店を設置・運営（改修費用はクラウドファンディングも活用）しています。町の賑わいづくりに加えて、地元住民が町内外の人々や高校生と日常的に交流することを促進する取組です。

また、西脇市比延地区では、地元住民が「ええまち比也野里」という組織を立ち上げました。飲食店の運営や、地元特産品金ごまとキクイモを使った「万能だれ」の製造・販売、お菓子や手作り惣菜等を販売する移動販売車の運行、地元の歴史講話会の開催など、住民同士の交流・助け合いのための多彩な事業を進めています。



◆ええまち比也野里（ひやのさと）（西脇市）

県民局においても、毎年このような地域づくり活動に取り組む団体（20団体程度で応募数等により変動）を支援しています。これらに加え、令和元年度からは、高校生のふるさと意識を高めるという趣旨で、高校生枠を新たに設け、高校生が主体的にアイデアと行動力を発揮して、ふるさとの活性化を図る活動を支援しています。

《高校生の活動例》



◆「農」と「食」の祭典での販売の様子



◆地元6高校による“北播磨ピザ”づくり



◆高校生による播州織を使ったワークショップ（小物製作）



◆高校生による地域づくり活動の発表

人口減少・超高齢化が進む中で、コミュニティを維持・活性化させていくためには、若い世代が地域に定着し、各世代と協力しあいながら、住民同士が助け合うような取組を進めていくことがより重要となります。

参考：高齢化率40%以上かつ世帯数50戸以下の小規模集落はR1.9月現在34集落

◆多世代共生でにぎわうまちづくり◆

高齢者施設の整備においても、単独の施設をつくるのではなく、周辺に温泉やレストラン、図書館など、地域にひらかれたスペースを設け、多世代が共生できるまちづくりが行われる例が出てきている。

コミュニティスペース



出典：国土交通省「第50回住宅地分科会
資料 8-4 居住者をめぐる状況 4,5」(2020.2.18)

さらに、北播磨地域の労働力の担い手として、今後より重要性が高まり増加すると予測されるのが、外国人の方々です。在留の外国人とも相互理解を深め協力しながら、地域社会の一員としてコミュニティを盛り立てていくことが必要になると思われます。



ビジョンを考えるためのポイント！

- ⑰人口減少・超高齢化で小規模集落が増加している。コミュニティを維持・活性化するため、若い世代に定着してもらい、協力を得ながら住民同士が助け合うことが重要
 - ⇒●地域の絆の醸成
 - 多世代交流
 - 子ども世代のふるさと意識の醸成・教育
- ⑱外国人とも相互理解を深め、地域社会の一員として協力しながらコミュニティを盛り立てていくことが必要
 - ⇒●異文化交流・理解

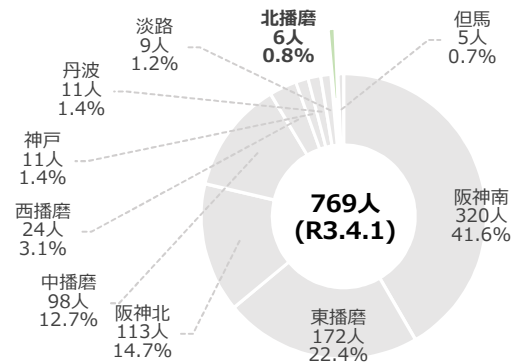
第9節 子育て環境・ふるさと意識の醸成・教育

県内を対象とした令和2年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査のうち、子育てに関する指標の結果をみると、「心豊かに伸び伸びと育っている」ことが高い評価となっています。田園が広がり自然が豊かであること、地域住民の心が温かいこと、保育所等の待機児童（令和3年4月）がほとんどないこと、また、北播磨の地域資源を生かした様々な団体の活動が影響しているものと推察されます。団体の活動例として、東条川疏水を活用する「東条川疏水ネットワーク博物館」の考えをもとに、加東市や小野市の小学校で兵庫教育大学と連携した出前講座や現地学習などの取組があります。



◆小学校での疏水学習（加東市）

【地域別待機児童数の内訳(R3.4.1)】



出典：こども政策課調べ、社会福祉統計年報（情報事務センター）

一方、「子育てのしやすさは良くも悪くもない」という評価です。高校・大学への通学の利便性が悪いことによる影響と推測されます。この利便性の悪さに関しては、今後、リモート授業などによる柔軟な学びの方法の広がりや自動運転化の実現などにより一定の改善が期待されます。また、利便性の面での短所を補って「子育て環境がよい」と実感してもらうためには、のどかな田園という環境上の利点に加え、地域ぐるみで子育てに取り組むなど、子どもたちにもふるさとの良さを実感してもらう取組が必要です。参考となる取組としては、加西市立北条小学校5・6年生の有志で構成される歴史ガイド隊が「加西市歴史街道ボランティアガイド」の方々の指導のもと、観光客に校区内にある五百羅漢などの案内をしている事例があります。



◆加西市立北条小学校生によるガイド隊活動の様子



◆加西市立北条小学校生による夢会議での事例発表

また、教育面では、教職員を養成する兵庫教育大学、教職員の研修を行う県立教育研修所、青少年から高齢者までが学び・野外活動を行うことができる県立嬉野台生涯教育センターが近接して在ります。この利点を生かし、一部市町における小中一貫校設置の動きなどと相まって、それぞれの機関等が密に連携・役割分担し、いわば北播磨モデルとして、学術教育面での実績をあげることができれば、北播磨地域全体に教育機関や研究機関が集積する好循環が生まれ、学術教育・研究の一大拠点形成される可能性を秘めています。加えて、学術研究の成果や人材が産業面にフィードバックされることになれば、地域産業の振興、雇用にもつながり、大きな波動となって北播磨地域を豊かにすることになります。

〈令和2年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査〉

- 「心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う人の割合」
1位・45.9%（全県38.4%）
- 「伸び伸びと育っていると思う人の割合」
3位・71.4%（全県68.0%、1位：阪神北75.1%）
- 「子育てがしやすいと思う人の割合」
5位・53.9%（全県55.9%、1位：阪神北68.0%）



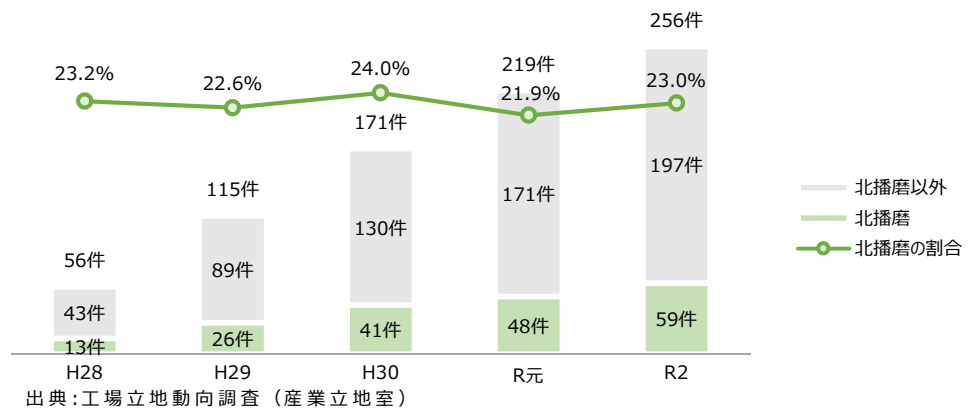
ビジョンを考えるためのポイント！

- ①9 県民意識調査の結果、「心豊かに伸び伸びと育っている」という評価であるが、「子育てしやすいと思わない（県内10地域中5位）」という評価
 - ②0 次世代へ継承を図る地域学習として東条川疏水を取り上げ、加東市や小野市の小学校で、兵庫教育大学と連携した出前講座や現地学習を実施
 - ②1 兵庫教育大学、県立教育研修所、県立嬉野台生涯教育センターが近接しており、一部市町の小中一貫校設置の動きと相まって、連携・役割分担により学術教育面での実績をあげることができれば、地域全体が学術教育・研究の一大拠点となる可能性を秘めている
- ⇒ ①9 ②0 ②1 ●子育てしやすい環境の整備
●子ども世代のふるさと意識の醸成・教育

第10節 産業・雇用

北播磨地域の令和元年度の管内総生産（名目）は、1兆1,340億円で全県21兆2,227億円の5.3%を占めており、県下で製造業の割合（36.6%）が最も高い地域です。製造業が多い要因としては、伝統的に地場産業が盛んであることや播州平野が広がる平坦な地形、高速道路網の要衝で工業団地が多くあることが考えられます。平成28年から令和2年度の5年間の工場立地件数は59件と全県256件の23%を占めています。

【工場立地件数の推移（過去5年間累計）】



北播磨地域の地場産業は、播州織、利器工匠具・家庭刃物、播州そろばん、釣針など、地域に密着しながら成長し続けてきましたが、海外製品との競合や消費者ニーズの多様化等により、取り巻く環境は厳しい状況にあります。特に、播州織は新型コロナウイルス感染症拡大の影響も受け、落ち込みが大きくなっています。



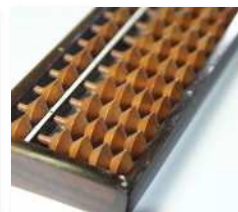
◆ 播州織



◆ 利器工匠具
(のこぎり、かんな、みなど)



◆ 家庭刃物



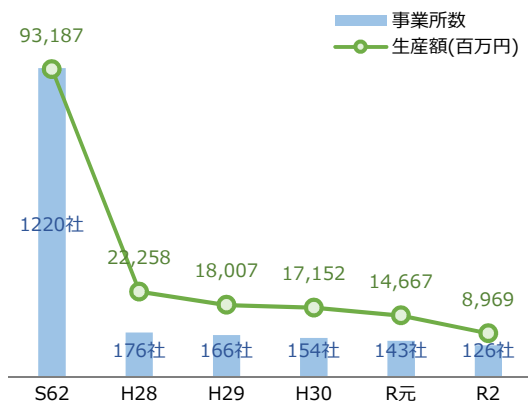
◆ 播州そろばん



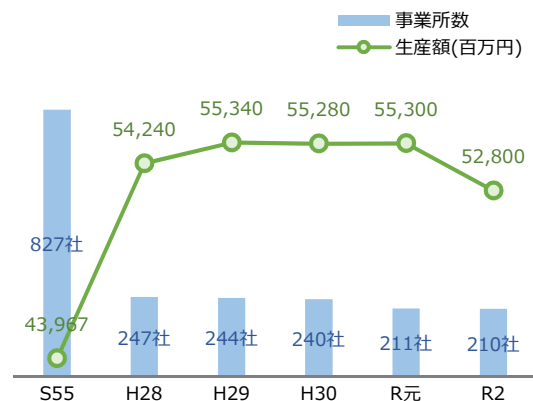
◆ 釣針

《主な地場産業の推移》

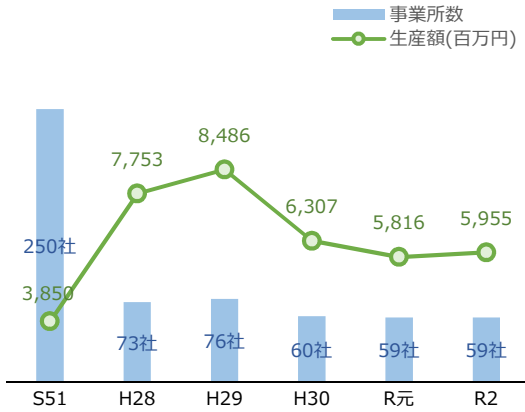
【播州織の推移】



【利器工匠具の推移】

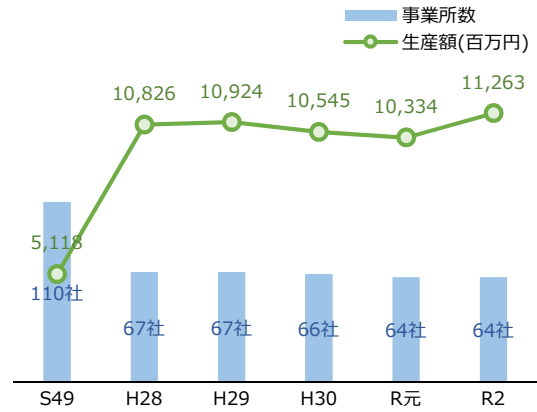


【家庭刃物の推移】



出典：産地組合調べ

【釣針の推移】



地場産業は北播磨地域の宝であり、守っていくための活路を見いだしていく必要があります。そのためには、現在各業界が取り組んでいる製品の魅力づくりやブランド化、海外等への販路拡大、人材育成等の取組に加え、北播磨地域の人々が改めてその良さを認識し、率先購入するなど、ひとり一人が地場産業の魅力を支え、広く伝える役割を担っていくことも有用であると考えられます。

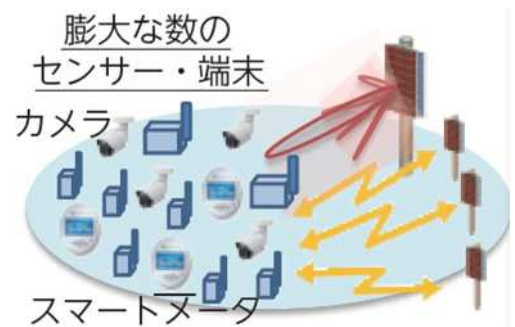


◆播州織を使ったファッションショー



◆展示会等に播州織を出展

人口減少に伴い、経済・地域活力の低下が危惧されます。このため、情報通信ネットワークの充実を図り、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)などのICT(情報通信技術)の利活用による生産性の向上や新しい産業・雇用の創出による、若い世代の確保・定着、UIターンなど移住・定住を促進する取組が必要です。



出典：総務省「平成30年版情報通信白書」(2018)

また、テクノロジーの活用により新しい産業・雇用創出が期待されています。30年後に想定されている製造業としては、AI(人工知能)が搭載されたロボットの製造、ゲノム解析技術等の向上による先端機器・医薬品の製造、電動自動車・空飛ぶクルマ、ドローンの実験場・製造などがあります。これらの産業への参入に加えて、北播磨は感染症対策としての大規模オートメーションPCRセンターなどの立地にも適した地域と思われます。

働き方改革や新型コロナウイルス感染症の拡大、情報通信ネットワークの発達を背景に、地方でIT関連事業等を起業する人（先駆的な例：徳島県神山町）や副業を認め、奨励する企業が増加するなど、働き方が多様化しています。このような社会の流れを的確に捉え、情報通信ネットワークのさらなる充実を進めたり、空き家・廃校の有効活用に取り組んだりすることも大切です。例えば、本業としてだけでなく、副業としても農業に参画できるような仕組みづくりなどを進め、起業・副業も含めた多様な働き方を選択できるようにすれば、移住・定住、地域経済の活性化につながっていくものと思われます。



ビジョンを考えるためのポイント！

- ② 北播磨地域の地場産業（播州織、利器工匠具・家庭刃物、播州そろばん、釣針）は、全般的に海外製品との競合や消費者ニーズの多様化等により厳しい状況
地場産業は北播磨地域の宝であり、守っていくためには工夫が必要
⇒ ● **地場産業の活性化**
- ③ 人口減少に伴い、経済・地域活力の低下を危惧。これを防ぐため、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）などのICT（情報通信技術）を活用した生産性の向上や新しい産業・雇用を創出し、若い世代の確保・定着、UIJターンなど移住・定住を促進する取組が必要
〈30年後の製造業例〉
 - AI（人工知能）を持った人間型ロボットの製造
 - ゲノム解析技術等の向上による先端機器・医薬品の製造
 - 電動自動車・空飛ぶクルマ、ドローンの実験場・製造
 ⇒ ● **テクノロジーの活用**
 - **新しい産業・雇用の創出**
 - **移住・定住の促進**
- ④ 働き方改革や新型コロナウイルス感染症の拡大、情報通信網の発達により、地方でIT関連事業を起業する人や副業を認めたり、奨励する企業が増加
情報通信技術の充実や空き家・廃校の有効活用、例えば副業として農業に参画できる仕組みづくりなどにより移住・定住、地域経済の活性化
⇒ ● **起業・副業の促進**
 - **新たな働き方、若者のフロンティア（コミュニティビジネス等）の創出**
 - **空き家等の活用**
 - **移住・定住の促進**

第11節 歴史文化・観光

北播磨地域には、様々な歴史文化が根づいています。県内の国宝建造物では、浄土寺（小野市）、一乗寺（加西市）、朝光寺（加東市）の3箇所が、日本遺産として一乗寺、清水寺（加東市）の2箇所が指定されています。国宝建造物は、県内6箇所のうち、3箇所が北播磨地域に集まっています。



その他、昭和初期の洋風木造校舎の西脇小学校（西脇市）、伝統芸能・行事では上鴨川住吉神社の神事舞（加東市）、東光寺の鬼会（おにえ）（加西市）などがあります。



◆西脇小学校（西脇市）



◆上鴨川住吉神社神事舞（加東市）



◆東光寺の鬼会(おにえ)（加西市）

また、伝統文化では、900年以上の歴史を持ち高級紙として使用された杉原紙（多可町）もあります。最近では、加西市が地域活性化の目玉、平和学習の場として、第2次世界大戦下に戦闘機・紫電改の組み立て、テスト飛行が行われた鶉野飛行場跡（加西市）周辺の整備に力を入れています。地域の魅力発信においても、歴史文化は最も基本となる重要なコンテンツの一つであることから、絶やすことなく継承していくことが大切です。



◆杉原紙（多可町）



◆鶉野飛行場跡（加西市）



(注) 鶉野飛行場跡は熱気球の離着陸場としても活用されています

その他、北播磨地域らしい観光交流資源として、歴史的風情のあるまちなみ「湯の山街道」「北条の宿(しゅく)」、多彩な公園施設(県立播磨中央公園、県立三木山森林公園、県立やしろの森公園、県立なか・やちよの森公園、県立三木総合防災公園、三木ホースランドパーク、日本のへそ日時計の丘公園、ひまわりの丘公園、県立加西フラワーセンター、ラベンダーパーク多可等)などがあります。比較的平坦で田園風景が広がる地域特性を活かして、風景や歴史を楽しみながら歩くフットパスや、自転車で巡るサイクリングに最適な地域となっており、サイクリング関係では東播磨地域と加西市を結ぶ播磨中央自転車道も整備され、県立播磨中央公園(加東市)では、サイクルスポーツの拠点としてBMX(バイクトクロス)レース等の自転車競技場整備も予定されています。



◆湯の山街道(三木市)

◆北条の宿(しゅく)(加西市)

◆サイクルステーション(加東市)

《北播磨の主な公園施設》

	<p>県立播磨中央公園 (加東市)</p>		<p>県立三木山森林公園 (三木市)</p>
<p>県立やしろの森公園 (加東市)</p>		<p>県立三木総合防災公園 (三木市)</p>	
	<p>ひまわりの丘公園 (小野市)</p>		<p>日本のへそ 日時計の丘公園 (西脇市)</p>
<p>県立加西フラワーセンター (加西市)</p>		<p>ラベンダーパーク多可 (多可町)</p>	

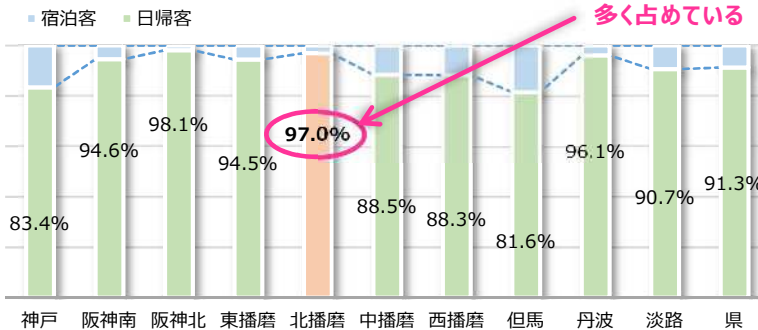
2020（令和2）年度の観光入込客数は10,809千人（全県3位）で、ゴルフ場利用客等のスポーツ・レクリエーション目的が6割を占めるなど、日帰客が96.0%（全県2位）であることが北播磨観光の特徴となっています。

【北播磨地域の観光入込客数の推移】

（単位：千人）

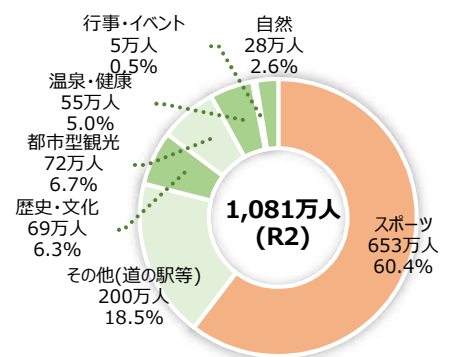
市町名	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019 (R元)	2020(R2)
西脇市	1,277	1,230	1,230	1,266	880
三木市	4,975	5,227	5,044	5,166	3,935
小野市	2,471	2,256	2,249	1,958	1,644
加西市	871	837	921	1,101	873
加東市	3,357	3,339	3,500	3,412	2,648
多可町	1,159	1,068	1,101	1,038	829
北播磨(A)	14,110	13,957	14,045	13,941	10,809
A/B	10.5%	10.0%	10.3%	10.2%	13.8%
県(B)	134,167	139,047	136,508	136,508	78,320

【日帰・宿泊別の地域別入込状況】（R2年度）

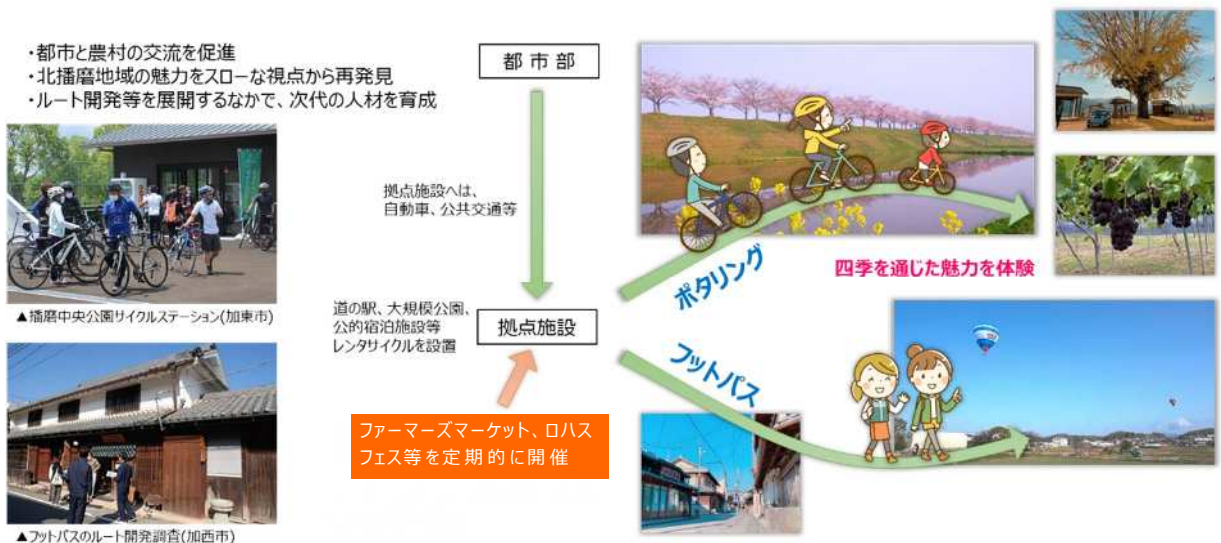


出典：観光客動態調査（観光企画課）

【北播磨における目的別入込の内訳】



観光客を誘致するためには、点を線に、線を面にしてPRすることが効果的であるため、車、フットパス、サイクリングなど移動手段ごとに、ストーリー性のあるモデルコースを設定・アピールしていくことが重要です。



また、経済効果を高めるためには北播磨地域内で宿泊をしてもらうことが有効です。例えば、古民家をリノベーションした特徴的な宿泊施設の誘致なども将来的な課題です。

さらに今後、若い世代の関係人口・交流人口を増やすためには、他地域にはない若い世代が訪れたいような新たな地域資源を作り出すことも有効です。例えば、空き家・廃校などを活用したサバイバルゲームや脱出ゲーム、広大な空中空間を活用したドローンレースなど様々な新しい世代に向けた遊びの場を作り出すことで、兵庫県の中で最も「オモシロイ！」を創造し、アピールすることにより、若者や子育て世代が集まる地域になると考えられます。



ビジョンを考えるためのポイント！

- ②⑤ 国宝建造物（浄土寺、一乗寺、朝光寺）や重要文化財など、魅力的な歴史・文化があり、地域の魅力発信では最も基本となる重要なコンテンツ
⇒ ● 歴史文化資源の継承
 ● 北播磨らしい観光交流資源
- ②⑥ 歴史的風情のあるまちなみやレクリエーション公園などフットパスやサイクリングに最適な地域
⇒ ● 北播磨らしい観光交流資源
- ②⑦ それぞれの観光資源を磨き、魅力を向上させ広域的に組合せ、ストーリー性のあるモデルコースを発信するなど、面でPRしていくことが重要
⇒ ● 観光モデルコースの設定
- ②⑧ 若い世代の関係人口・交流人口を増やすためには、新たな地域資源を作り出すことも必要
⇒ ● 北播磨らしい観光交流資源

第2章の現状から見据えたキーワードを5つの柱に分類し、柱ごとに地域の皆さんの思いを整理しました。

第1節 5つの柱立て



第2節 地域の皆さんの意見の整理

北播磨の現状から見据えた「ビジョンを考えるためのポイント！(①～⑳)」に提示したキーワードについて、地域の皆さんからいただいた主な意見を紹介します。

- 《意見交換等概要》
- I 北播磨地域ビジョンアンケート調査
 - II 北播磨の未来を描くワークショップ(以下ワークショップとする)
 - III ビジョンを語る会⇒「30年後の北播磨について」

自然環境保全

●自然環境(田園風景)の維持・保全(①⑤)

- ・動物など自然と共生、自然と調和、美しい田園風景の保全を目指す
- ・自然環境が今のまま残り二地域居住先として自然や食の豊かさが今以上に際立つ地域であってほしい
- ・県下有数の水田農業地域であるため、農林水産省戦略の脱炭素社会(2050年までに有機農業を農地の25%まで拡大)に県内で率先して取り組む素地がある

●「農」と「食」の魅力づくり(⑥⑦⑧⑨)

- ・ワークショップでの意見「人と自然がゆるくつながる北播磨」
北播磨地域の山や川が育んできた自然の恵みを受け継ぎブランド化して、魅力を発信し続ける
- ・おもしろ農作物の生産と販売(形や大きさが不揃いな野菜に付加価値を付け食品ロスをなくす)
- ・CO₂を多量に吸収する作物をつくる

●防災・防犯意識の向上(⑩⑪)

- ・住み良い地域。災害の少ない地域だからこそ、そのことに甘えてはならないと考えることがある
- ・里山保全、河川整備等のハード面と、防災訓練等のソフト面を充実し、自然災害が起こりにくい安全なまちづくりが必要
- ・近隣市町との連携をとること。また防災減災の為に日頃より訓練、教育、啓蒙に力を入れることが大切である
- ・京阪神ではコンクリートにアスファルト、点々と緑地。北播磨ではすぐ水田を目にし、初夏は緑の絨毯で彩る。食糧と防災のため水田を減らしてはいけない

●交通インフラの維持・整備(⑫⑬⑭)

- ・子ども達が快適に移動できる多様な移動手段の確保
- ・地域住民のための自然環境に配慮した交通インフラ維持と観光や交流事業を活発にするための交通の利便性の向上が必須

多世代交流・多文化共生

●子育てしやすい環境の整備(③⑱⑳㉑)

- ・ワークショップでの意見「次世代のやりたいを叶えるグローバルな北播磨」
「ここにいると何もできない」という閉塞感でなく、子ども達のやりたいことが実現できる地域。地域の大人から学ぶ機会をつくる
- ・子育て世帯への支援(医療費・安心して働けるサービス等)の充実
- ・日本の最先端をいく「子どもにやさしい地域」へ展開する
- ・子どもにも優しい有機農法による農産物や食品の普及
- ・いじめや虐待を許さない地域づくり

●多世代交流(⑯⑰)

- ・小学校の空き教室は、高齢者へ開放し、交流学习をする。お年寄りを思いやる子に育つ。地域で子育て。子育て世代には託児所代わりにもなる。歴史の伝承も行う

●多文化共生(異文化交流・理解、外国人の活躍・協働)(④⑩)

- ・ワークショップでの意見「共に創ろう北播磨」
多様な人にとって暮らしやすい共生社会を実現するには、多様な人を受入れる意識改革が必要
- ・地域内の外国人との交流機会を充実させることでコミュニケーションを図る。市民団体などのコミュニティが主催する祭りやイベントへの外国人居住者の参加
- ・外国人への教育等サポートの充実、様々な言語の生活情報の支援、ALT(外国人の外国語指導助手)は学校だけでなく地域でも同様の役割を期待する

●高齢者福祉・医療の充実(⑮)

- ・AI(人工知能)技術の進歩で、障害者・高齢者支援、医療格差を解消し、高齢者に住みやすい環境をつくるには介護サービスを充実させる
- ・無人のデマンドタクシー又は、高齢者対象の無人の福祉タクシーが可能に!
- ・地場産業「播州そろばん」と脳トレを掛け合わせる。高齢者のモデルタウンとして、シルバー労働力の供給源とする(コミュニティビジネス等)

●子ども世代のふるさと意識の醸成・教育(③⑬⑰⑱⑳㉑)

- ・北播磨地域の廃校に5G・6G次世代通信網を整備して塾や大学授業が受けられる
- ・良い教育が受けられ、芸術文化活動も首都圏に劣らない機会のある地域になれば、若い世代の定着・転入も増える
- ・地域や祖父母による子育て支援により、子どもたちの創造力・行動力・チャレンジ精神を養うことができ、子どもが活躍できる地域になる
- ・子どもが小さいうちから、文化を大切にすることが必要

地域・生活

●新たな働き方・若者のフロンティアの創出(⑥⑦⑧⑨⑬⑲)

- ・若者の挑戦の芽を摘むことなく挑戦して、失敗を許容し挑戦し続けられる場所であれば誇れる地域になる
- ・在宅勤務をしながら自然を楽しむライフワークの定着
- ・米作りでお金儲けをするだけでなく、米作りを通じた人と人とのコミュニケーションを図ることへ考え方をシフトする

●地域の絆の醸成(③⑬⑰)

- ・働き手となる若者や外国人労働者にとって、また高齢者、障害者、外国人、全員が等しく住みやすいと感じられる地域
- ・ワークショップでの意見「べっちょない精神がつなげるまち」
それぞれが自分らしく自己実現をして発信し、繋がりながら北播磨の文化を創る地域。チャレンジする人材と、それを応援する文化で成り立つ
- ・あらゆる年代層が、住んで良かった、いずれは帰ってきたい、ずっと住み続けたいと思える地域
- ・小さな子どもからお年寄りまで、心身ともに健やかに、元気に過ごしてほしい。誰か一人が取り残されることなく、皆が幸せを感じられるような、「おかえり」といってもらえるような温かな場所

●生活利便性の向上(②)

- ・自動運転バス・ドローンによる交通物流サービスや、遠隔医療の普及等により利便性が良く魅力的でないとは住まない
- ・子ども達が移動できる交通手段の確保(再掲)

●移住・定住の促進(③⑲㉑)

- ・今までの経験を生かして個人のやりたいことを実現したい

- ・移住者を受入れて関係を築ける気持ちがある
- ・移住者にとって、この地域が気に入って移住をした。目鼻先の人口増のみを目標にした開発は危険を伴う。もともとこの地域に住んでいた人の見解と、わざわざこの地域を選んで越してきた人との見解の違いをきちんと精査してほしい
- ・地域内とは異なるノウハウを持った地域外の人が参画し、地元の若者などとの協働を通して、地域の課題解決に貢献する。そうした土壌づくりは今後の地域資源となっていくのではないかと

産業・雇用

●テクノロジーの活用(⑥⑦⑧⑨⑩)

- ・北播磨地域は農村部でありながら都市的な生活様式。急激な技術革新、デジタルトランスフォーメーションが進展し、生活、自然、産業等でテクノロジーをうまく活用し応用が必要。農村の多様な土地利用を新技術で適切に維持管理していくためには、これまでの役割を新技術で代替する検討の進展が望まれる
- ・密でない農村環境が功を奏して空を活用できる時代になる
- ・観光・通勤・通学・生活の移動手段には環境に優しい自転車利用、超小型モビリティが発揮する
- ・人口密度の低い地域だからこそ、最先端技術の実証実験地となる

●地場産業の活性化(⑫)

- ・VR（仮想現実）を活用した商取引が普及し、播州織のデザインを生かしたアバターの販売や、播州織商品のネット販売が拡大するなど、新たな販売チャネルで地場産業が独自の強みを発揮する

●新しい産業・雇用の創出(⑬)

- ・デジタル化した農業、林業の先進地となる
- ・空と陸をつなぐハブ機能(活動の拠点)による巨大物流ネットワークを構築し、新鮮野菜の流通の仕組みなどをつくり、産業都市へと展開する
- ・農工商のバランスのとれた特性を生かし価値創造した新たな産業を創出
- ・VR（仮想現実）を生かしたビジネスの展開

●起業・副業の促進(⑥⑦⑧⑨⑭)

- ・若者が伸び伸びと活躍できる農村づくり
- ・アイデアがビジネスにつながる環境や、また地域貢献や新たな経験を目的に副業を始めるための、スタートアップ集積地へと展開する

歴史文化・観光

●北播磨らしい観光交流資源(①⑫⑮⑯)

- ・行政・民間・専門機関が一体となり典型的な目玉「THE 北播磨」で観光ツーリズムの継続的な取り組みが必要
- ・「オアシス」として都市住民に癒しを提供する場だけでなく、「サードプレイス」として都市住民が北播磨のコミュニティと緩やかにかわり、地域の人との創造的な活動につながるような場へ展開する

●歴史文化資源の継承(⑮)

- ・5市1町に点在する歴史的資源を、平和教育、環境教育、歴史教育、社会教育等に生かすため、各市町一体で資源の可視化等に取り組む継承する
- ・江戸、京都よりも古い歴史・文化がゴロゴロあるのにまだ誰も可視化やタグ付けができておらず、専門家の知識どまりになっている

●空き家等の活用(③⑭)

- ・5年～10年で自由に空き家に入出入りして循環できる住まいの流動性が、受入れられるかが今後の農村地域に必要
- ・廃校・空き家を利用した若者が集まる「オモシロイ」仕掛けで交流が広がる

●観光モデルコースの設定(⑰)

- ・里山整備、河川支流のビオトープ整備で校外授業や家族遊びで地域・三世代交流や、東条川疏水整備で東条湖、昭和池等のストーリー仕立ての観光コースを設定する
- ・加古川沿いの風景を楽しめる、西脇市のへそ公園を起点とした、加東市滝野の闘竜灘、播磨中央公園へのジョギングコースづくり

第4章 地域の方向性

持続可能な開発目標(SDGs)の理念を基に、情報通信インフラの発達をはじめとして想定される近未来のデジタル化社会等を見据え、第2章の現状及び第3章の県民意見から、誰も取り残さない社会の実現を目指して、地域の方向性(5つの柱)を整理しています。

自然環境保全

●自然環境(田園風景)の維持・保全

のどかな田園風景、天然林や公園が多く自然の豊かさを維持するため、不法投棄の未然防止や獣害の被害防止を目指す。また、自然と共生や調和をするために脱炭素社会に率先して取り組み、美しい田園風景の保全を目指す。

●「農」と「食」の魅力づくり

全国に誇る山田錦の産地、県下一の水田農業地域である他、黒田庄和牛、播州百日どり、ぶどう、ハボタンなど「農」「食」関係の特産品が多いことから、北播磨地域の山や川が育ててきた自然の恵みを受け継ぎブランド化して、魅力を発信し続ける。



出展：農林水産省 HP

●防災・防犯意識の向上

災害時には、自主防災組織の減災活動や消防団活動、水田等の洪水調整機能などが重要な役割を果たしてきた。また、犯罪認知件数は全県を下回っているものの、犯罪が多様化している。このようなことから、地域の暮らしを守るためには、子ども、高齢者、障害者、外国人を含めた地域住民が、日頃から危機意識を持って避難訓練等の防災対策や、犯罪事案の啓蒙等による防犯対策を行っていくことが大切である。今後とも、自主防災組織等地域コミュニティ力の向上や水田の維持等を図る。

【自主防災組織研修会の開催】

自主防災組織のリーダーを対象とした研修会を開催



●交通インフラの維持・整備

高速道路網は東西南北の結接点であり利便性が高く、将来、完全自動運転時代の到来が期待される。また、公共交通機関は、生活・通勤・通学・観光等の重要な交通手段である。子どもや高齢者が快適に移動できる多様な移動手段の確保や、地域住民のための交通インフラの維持と観光や交流事業を活発にするための交通利便性の向上を目指す。



国土交通省 全国初の自動運転バス実証運転

多世代交流・多文化共生

●子育てしやすい環境の整備

「ここにいると何もできない」という閉塞感でなく、「やりたいを叶えるグローバルな北播磨」を目指し、日本の最先端をいく子どもにやさしい地域へ展開する。

●多世代交流・多文化共生（異文化交流・理解、外国人の活躍・協働）

多世代・多様な人・文化を受入れる意識改革をすることで、相互理解を深め「共に創ろう北播磨」としてコミュニティを盛り立てていき、多様な人が暮らしやすい共生社会を目指す。

●高齢者福祉・医療の充実

2050年には平均寿命が男性84.02歳、女性90.04歳と3歳以上伸び、超高齢化が予想されるため、高齢者福祉の充実と医療の進歩が必要になる。そのためには、高齢者に住みやすい環境整備として介護サービスを充実させることや、AI(人工知能)技術の進歩で障害者・高齢者支援、医療格差を解消することを目指す。

●子ども世代のふるさと意識の醸成・教育

次世代へ継承を図る地域学習として、東条川疏水の出前講座や現地学習を教育機関と連携して実施するなど、地域の協力や助け合いにより、子どもたちの創造力・行動力・チャレンジ精神を養い、子どもが活躍できる地域を目指す。

◆子どもたちの自然環境体験



◆介護ロボット



地域・生活

●新たな働き方、若者のフロンティアの創出

若い世代の地方暮らしへの関心が高まり、就農や「農」と「自然」を新しいビジネスモデルのキーワードとして捉える動きが広がっている。若者の挑戦の芽を摘むことなく、失敗を許容し挑戦し続けられる場所であれば誇れる地域になる。

◆医療からワイン造りへ転身

自然を感じながら ゆっくりとした時間を楽しむ



●地域の絆の醸成

人口減少・超高齢化で小規模集落が増加していることから、コミュニティを維持・活性化するためには、若い世代が定着し、住民同士が助け合うことが必要である。自分らしく自己実現をして発信し、チャレンジする人材と、それを応援する人々が「べっちょない精神」で繋がりながら北播磨の新しい文化を創る。

●生活利便性の向上

交通物流面での運転技術が不要の完全自動運転やドローン等の広範な活用に加え、デジタル化の進展により、診療や行政手続等様々な生活サービスを遠隔で受けることができるようになり、生活の利便性が向上する。のどかな田園環境の中で、都市部と遜色のないサービスを受ける、物心両面で豊かに暮らすことができる魅力的な地域を目指す。

●移住・定住の促進

AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)などのICT(情報通信技術)を活用した生産性の向上や新しい産業・雇用の創出等で、若い世代の移住・定住を促すことができる。地域内とは異なるノウハウを持った地域外の人が参画し、地元の若者などとの協働を通して地域の課題解決を目指す。

産業・雇用

●テクノロジーの活用

人口減少に伴う地域活力の低下を防ぐため、テクノロジーを活用した新しい農業ビジネスモデルが生まれると、密でない農村環境が功を奏して空を活用できる時代が予想される。北播磨内では通勤・通学・観光・子どもや高齢者等の移動には環境に優しい超小型モビリティ等が活用される。

◆多様な移動手段



出典：経済産業省「多様なモビリティ普及推進会議とりまとめ」

●地場産業の活性化

地場産業は北播磨地域の宝であり、今後さらに成長を続けていくためには活路を見いだす等の工夫が必要である。例えば、VR(仮想現実)を活用した商取引が普及し、播州織デザインのアバターの販売や、播州織商品のネット販売の拡大が期待されるなど新たな販売チャンネルで地場産業独自の強みを発揮する。

●新しい産業・雇用の創出

AI(人工知能)を持った人間型ロボットや、ゲノム解析技術等の向上による先端機器・医薬品の製造、電動自動車・空飛ぶクルマ、ドローンの実験場・製造などの新たな産業や雇用を生み出す。また空と陸をつなぐハブ機能(活動の拠点)による巨大物流ネットワークの構築を目指す。

●起業・副業の促進

働き方改革や情報通信網の発達により、北播磨にいながら国内のみならず海外ともビジネスや交流ができるため、距離の壁を超えて地方で起業をする人や、副業を認める企業が増加している。アイデアがビジネスにつながる環境や、地域貢献、新たな経験を目的に起業や副業を始める人々のためのスタートアップ集積地へと展開する。

歴史文化・観光

●北播磨らしい観光交流資源

行政・民間・専門機関が一体となり、歴史的風情のあるまちなみや公園など、フットパスやサイクリングに最適であることなどの典型的な目玉として「THE北播磨」を創出し、新たな観光ツーリズムを継続的に発信する。

◆播磨中央公園サイクルステーション



●歴史文化資源の継承

国宝建造物や重要文化財など、魅力的な歴史・文化があり、地域の魅力発信では最も基本となる重要なコンテンツである。5市1町に点在する歴史的資源を、平和教育、環境教育、歴史教育、社会教育等に生かすために、可視化等に展開する。

●空き家等の活用

若者が集まる「オモシロイ」仕掛けで交流する。サバイバルゲームなど、若い世代の遊び場として空き家や廃校を有効活用する。また、5年～10年で自由に空き家に入出入りして循環できる住まいの流動性を受入れる仕組みづくりを展開する。

●観光モデルコースの設定

観光資源の魅力を向上させてそれを広域的に組合せ、ストーリー性のあるモデルコースを発信するなど、面でPRする。里山整備、河川支流のビオトープ整備、東条川疏水整備の東条湖、昭和池等のストーリー仕立ての観光コースを発信する。

子ども、高齢者、外国人を問わず地域の皆さんが幸せに暮らすことができるよう、2050年の北播磨地域の“のぞましい姿”を描いています。

目 指 す 将 来 像

田園の恵みが生み出す ここちよい 未来の暮らし ～ ひょうごのハートランド・北播磨 ～

北播磨地域は兵庫県の中央に位置し、県下最大の河川「加古川」が中央部を貫流しており、流域には播州平野が広がっています。また、温暖な気候に恵まれていることもあり、県下有数の水田農業地域であることから、夏は緑の絨毯、秋は黄金色に彩られる“田園風景”は、未来へ残していきたい北播磨の光景です。

田園は風景だけでなく、自然の恵み、食の恵み、ゆったりとした時間など人々の心身に良い影響を与えます。北播磨の田園や、その恵みに新たな未来の技術が融合することで、ここちよい 未来の暮らし を実現しています。



将来像を構成する5つの柱

将来像の実現に向け、次の5つの柱により取り組んでいきます。

また、各柱の取り組みを通して、実現される具体的な北播磨 2050 年の生活シーンを描いて、皆さんの未来を「見える化」しました。

自然環境保全

きらめいて！ 自然の恵みが楽しめる豊かな暮らしを育てます



播州平野を貫流する加古川や疏水による田園風景や、山や川が育んできた自然の恵みを受け継ぎながら、自然と生命とが共生する環境を保全します

皆さんがデザインする、北播磨 2050 年の
生活シーンの日記を覗いてみました。
その一部をご紹介します。

● 空中散歩で蛍の乱舞観賞 (自然環境の維持・保全)

今日は、北播磨地域ビジョン委員会の「北播磨の環境を考える 6 月 7 日」として自然環境保全活動日だった。私は、日頃からカワニナ等の生態系を観察しながら川ゴミ清掃をしてきたが、今晚はその成果を目の当たりにして最高の気分だ。人を運ぶドローンで空中散歩。眼下には蛍が乱舞するファンタジーな自然がまはやく、生命の美しさを実感できた。この蛍の舞を来年も見るために私の活動を続けたいと思った。

● 今日はホタル祭り。見上げると自然のプラネタリウム(自然環境の維持・保全)

今日は、私の田舎のホタル祭り。神戸に住んでいるので、久しぶりに田舎に帰ることになった。都会から多くの人々が来ている。ホタルが舞う幻想的な姿に感動!ふと見上げると満天の星空が広がり自然のプラネタリウムようだ。この星空をいつまでも見られるようにこの環境を守ってきたい。

● 都市と田園の共演・北播磨ハイブリッドタウン(「農」と「食」の魅力づくり、交通インフラの維持・整備)

加古川市で一人暮らししている僕、今日は、開通したばかりで、観光列車も走る新加古川・鳥取リニア線を通して地元の鳥取に久しぶりに帰省することになった。新西脇駅で 30 分程の停車時間があったので、イベント開催していた「北播磨インターナショナルフェア」に立ち寄ったところ、黒田庄和牛を使ったジューシーな餃子や肉まん、播州百日どりをを使ったフォーなど北播磨の豊かな食材を使ったおいしそうなものがいっぱいあって、売っている方も元気で活気があったので、思わず黒田庄和牛のトルティーヤと播州百日どりのバインミー、山田錦のビールもテイクアウトしてしまった。新加古川・鳥取リニア線から見える田園と高層ビル群が共存する眺めを酒の肴に僕の帰省旅が続く。今度は帰省以外で、じっくり北播磨を楽しみたいな。

● 北播磨の米の自給率 (「農」と「食」の魅力づくり)

30 年前(2020 年)に北播磨の水田を守ると地域ビジョンの中で掲げていた。その後、イネの植物体内に昆虫や病原菌などから身を守る原理を解明した「土壌プロバイオティクス農業」を発明したので、この地域の米は味や艶、栄養価の高い米で健康促進する食材と位置付けられている。だから北播磨の人は、このお米を毎朝食べることが当たり前になり、水田が多いんだね。

● 世界が認める北播磨産の山田錦で醸した日本酒（「農」と「食」の魅力づくり）

お父さんがたまに飲んでいる日本酒って、北播磨で採れた酒米で作っているんだって。しかも最高級の日本酒ができることから、この酒米は世界で認められていて、ヤマダニシキという言葉は世界中で通じるんだ。

● 特Aランク山田錦のビジネス（「農」と「食」の魅力づくり）

人間の五感をデータで取り扱えるようになり、私は統計的に多くの人においしく感じる食品開発をしている。食材の特性をデータ化し、どの食品とマッチするか分析している。北播磨の酒に合う食品や、意外なデザートの開発まで地域の食資源の魅力を最大限に伝えるアイデアがどんどん溢れてくる。このアイデアをブラッシュアップして「キタハリマの旨いもん」ブランドとして世界へ発信したいと考えている。今開発しているのは、最高ランク特Aブランドの山田錦を、ほんのり日本酒が香るおぼろ豆腐にしてみた。山田錦の米麴で作る味噌ソースを添えたら美味しい!と評判だ。また、子ども向けの日本酒プリンや日本酒キャラメルなどのスイーツも話題になっている。山田錦は、子どもはもちろん大人たちも楽しめる最高の特産品だ。

● AI(人工知能)が守る自然環境と私の暮らし（防災・防犯意識の向上）

「安全安心」が豊かな暮らしの基盤だ。北播磨では地層の動きや地中の含水量を AI(人工知能)技術で監視しているらしい。山林の枯れ木や朽木も、赤外線カメラで監視しているという。大雨時や台風時に常時、災害シミュレーションを画像化(見える化)し、私の命を守ってくれるんだなあ。

● ペットも一緒に避難所へ（防災・防犯意識の向上）

うちには、猫の“ミャン”がいる。今日は市役所へペット登録に行ってきた。これで、大きな地震などの災害の時もミャンと一緒に避難できる。ペット登録をしておく、一緒に避難できる避難所を案内してくれるんだって。学校のともだちにも教えてあげよう。

● 車の免許がなくても移動はラクラク! (交通インフラの維持・整備)

北播磨って交通が不便だと思っていたけど、電車は自動無人運転になって、すごく本数が増えた。自動運転のバスも路線が増えたとし、タクシーもスマホで予約しておけば、時間どおりに来てくれる。自動運転って不安だったけど、道路も整備されてとっても安心。都会より便利だと思うよ。

● 空を走る街道の復活 (交通インフラの維持・整備)

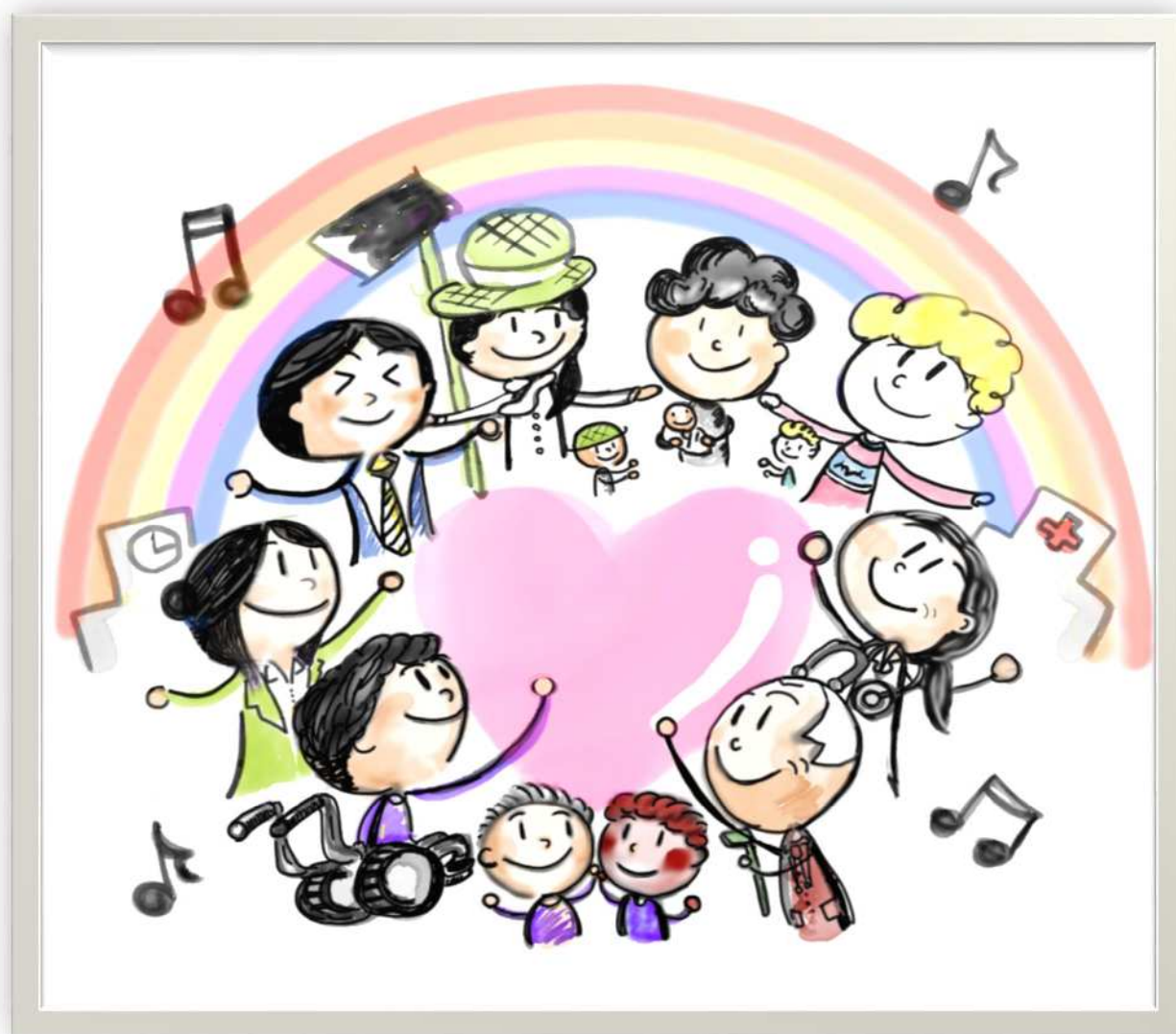
古から姫路と京都をつなぐ大切な役割を担う播磨(西京)街道だった国道 372 号。2050 年の今は、国道 372 号の上空に強化ガラスで覆われた自動運転車専用レーンが整備されている。その空中レーンを通して姫路から京都への自動運転ドライブに行こうとしていたら、北播磨地域内に入った途端、眼下に広がる美しい田園風景と車のモニターにつながる地域の方々と楽しそうなお店に目を奪われた。吸い込まれるように北播磨の地に降りて、素敵な杉原紙のお店に立ち寄り「はがき」を買ってみた。あとから「はがき」を久しぶりに書いて両親に送ったら、大変喜ばれた。北播磨っていいところだな。

● 交通利便性の向上でゆとりある暮らし! (交通インフラの維持・整備)

都会の大学を卒業して北播磨に戻ると考えた時、車の免許がなければ不便なことが多いのが心配だった。ところが、移動手段の切り替え拠点が整備され、電車やバス、シェアリングの自動運転自動車や多様な小型モビリティ、サイクルシェアが利用できるおかげで、行動範囲も大幅に拡大した! 普段の生活用品は VR(仮想現実)市場で購入しドローンが宅配してくれるけど、たまには小型モビリティを利用してリアルショッピングしたり、休日には田園風景の中をサイクリングに出かけたりして、生活利便性の向上だけでなく休日も充実し、自然のなかでゆとりある暮らしができて気に入っている。

★あなたの北播磨 2050 年のライフデザインを書いてみませんか★

たのしんで！ 世代と文化を越え、誰もが笑顔であふれます



年齢、人種、国籍を越えて、多様な人々が交流し、共に助け合い、支え合う、誰もが笑顔あふれる、ふるさとにします

皆さんがデザインする、北播磨2050年の
生活シーンの日記を覗いてみました。
その一部をご紹介します～。

● お世話ロボットのベビーシッター (子育てしやすい環境の整備)

テレワークの日も多いけど、明日は展示会の準備で出社する。帰宅は遅くなりそう。夫も出社しないとイケないらしい。子どもたちだけでは心配だし、お世話ロボットに出動してもらおう！子どもたちもロボットと遊ぶのを楽しみにしている。家の様子はスマホでいつでも確認できるし、料理もおいしそう！！ホント助かるわ。

● 「人口爆増!!」子育て大国・北播磨 (子育てしやすい環境の整備)

散歩中に廃校を通りかかったが、何やら大規模な工事をしている。今度、この廃校が小学校にリニューアルされるそうだ。北播磨地域では、保育園(幼稚園)から高校までの保育料・授業料や、18歳未満の医療費が全て無料になった。僕たちは仕事をセーブして、子育てや家族サービスといった家族時間を確保できるようになった。リモートワークの普及やこのような北播磨独自の制度によって仕事にとられ過ぎない、子育てのしやすい環境が県内外で大人気となっている。

● 歴史文化に触れ、つながりを体験 (多世代交流)

地域に昔から伝わる伝統舞踊を体験した。おじいさんからほぼくの地域の歴史を、おばあさんから伝統舞踊を教えてもらった。その後は郷土料理をみんなで作って食べたよ。僕はますますこのまちが大好きになったよ。

● 家にいながら外国旅行 (多世代交流、多文化共生(異文化交流・理解))

今日は、自宅に地域の人たちが集まった。お隣のおじいちゃんや、最近この地域に来たベトナムや中国の家族も来てくれた。私のおばあちゃんはお琴の先生。お琴の演奏に外国の子どもたちは興味津々。お昼は、巻き寿司など、地元の料理でおなかいっぱい！みんなで食べる食事はたのしい。次は、ベトナムのフォーの作り方を教えてもらえらって。今から楽しみ!!

● 地域で楽しむ外国のフェスティバル (多文化共生(異文化交流・理解))

私の地域には、ベトナムや中国、フィリピン、ブラジルなどから来ている家族が沢山いて、いつも地域の夏祭りは、ベトナムのランタン祭りや、ブラジルのサンバ、フィリピンのストリートダンスを披露する盛大な合同夏祭りになっている。この日は北播磨に多くの人々が見に来てくれて嬉しくなった。それに、中国の春節祭と春の節句祭りを合わせた、北播磨独自のリアルな文化が生まれているわ。

● 放課後は空き教室で語学学習 (多文化共生(異文化交流・理解))

今日は外国村が開く日だったんだ。小学校の空き教室が、放課後は外国村になるんだ。ベトナム村、中国村、ブラジル村、日本村、いろいろあって楽しいよ。そこでは、その村の言葉しか使えないんだ。おかげで、いろんな言葉を覚えられるよ。お祭りの日は、体育館や運動場でみんなが集まるんだ。どこの国の人ともみんな仲良しだよ。

● 祭りを通して異文化交流 (多文化共生(異文化交流・理解))

今日は毎年恒例の「もち麦まつり」に参加。外国人移住者も沢山参加されていた。ランダムにチーム分けされる「もち麦料理対決」では、去年仲良くなったキムさんは北播磨の別のチームのようだ。今年も、たくさん友だちができるといいな。賞品の北播磨の特産品を目指してがんばるぞ!

● 100歳までの生きがい (高齢者福祉・医療の充実)

AI(人工知能)によって食生活の改善や治療方法が確立されているし、なんとって、自宅のトイレは排泄物でいつでも健康チェックをしているので、病気の早期発見、早期治療ができる。それに、体力的な衰えはアシストスーツでサポートされているから、100歳まで健康長寿を全うできそう。私のような心身共に元気な高齢者が増えているから、高齢者が若者世帯の暮らし(保育園のお迎え等)を支える「おたすけシニア」としての仕事が楽しく、若者から喜ばれることで生きがいになっている。

● 見守りシステムで田舎の両親も安心（高齢者福祉・医療の充実）

私は実家を離れて暮らしている。私の田舎では、病院と各家庭を結ぶ高齢者の見守りシステムがあり、毎日、端末を手を持つだけで、健康状態のデータが病院に送られる。ところが今日は母のデータが届かなかったらしい。すると病院から医師が母の異変を察知して、すぐに訪問し診察をしてくれたようだ。地域の人たちに守られていて母も私も安心だ。

● 保護動物ふれあい体験パーク（子ども世代のふるさと意識の醸成・教育）

家の近くに「保護動物ふれあい体験パーク」がオープンしたので、弟と行ってみた。捨て犬や猫など保護された動物とのふれあいゾーンには、たくさん子どもたちが集まっていた。家に連れて帰って、動物を飼う体験もできるんだ。係のお姉さんが、動物の生命の大切さを、熱心に話してくれた。家で待ってる犬の“ポポ”と遊びたくなっちゃった。お父さんやお母さんにも、お姉さんの話を教えてあげよう。

● 小学校も中学校も行きたいところを自由に選べる時代
（子ども世代のふるさと意識の醸成・教育）

この地域は、私たちが子どもの頃は、自分たちが行きたい学校に家から通えない不便なところだった。今ではサテライトオフィスならぬサテライトスクール。授業はリモート形式なので遠くへ行かなくても、行きたい学校の受けたい教育を受けられる。授業は自由に選択できるから、個性が育てられそう。他の学校の生徒との交流も簡単にできるからコミュニティも広がっているみたい。

★あなたの北播磨 2050 年のライフデザインを書いてみませんか★

はつらつと！ 「べっちょない精神」でつながります



「べっちょない」（「べっちょない」は大丈夫！という方言です）で支え合う絆をつむぎ、自分らしい生き方・働き方・暮らし方・学び方にチャレンジできる地域にします

● 夢は地元の人たちと地域をもっと元気に (若者のフロンティアの創出)

私は高校時代、特産のもち麦を、地元企業と連携して商品化することにチャレンジした。街の人たちの応援が大きな力になり、自分たちのアイデアが商品化された時は大きな自信になった。大学進学後、このもち麦を海外の人に知ってもらうために、世界の人々の口に合う味をデータ化して、健康食として海外への発信も試してみた。大学卒業後は、高校の同級生と地元で食品関係の起業をしたいなぁ。外国の方、障害をもった方、多くの方と一緒に仕事をしたいと思っている。環境に配慮し、規格外の農産物を加工商品にして農家の応援もしたいな。夢はどんどん広がっていく。会社は残業なし、プライベートの時間も充実、ここから世界に発信し多くの人に注目される会社になりたいな。

● 未来の森林化都市 (若者のフロンティアの創出)

私はコンサルタントを起業し、自然との調和を実践する計画を行政へ提案している。北播磨の檜は 1000 年以上耐久性がある木材なので、観光資源、教育施設、スポーツ施設の大規模木造建築物に導入して、森林化都市を目指す計画だ。木材は、柔らかな質感と、温かな肌触り、自然に溶け込む優美な外観を生み出し、テクノロジーの進化で快適な暮らしがより一層、豊かになると思っている。

● 暮らしも仕事も私らしくフリーに生きる(新たな働き方・若者のフロンティアの創出)

私は入社以来、北播磨のものづくり企業で働いている。本社が率先して女性のキャリアアップ・登用に取り組んでいたから地元就職を決めた。きめ細かい作業や感性が必要とされる仕事も多く、技術部だけでなくデザイン企画や販促など様々な経験ができて楽しい。今はワーキング・ママとして経営企画に携わっているが、仕事と子育ての両立は北播磨の住環境に支えられていると思う。通勤時間が短くて、買い物もコンパクトな距離に「欲しいものが全部揃うエリア」があり、そこにお店が集まっている。私はマイカーを所有していないけれど、北播磨は鉄道を核に地域がネットワーク化されていて、自動操縦車で戸口から駅やバス停にアクセスができる。その他、カーシェア・自転車シェアを利用すればいいので所有は不要。ほしい時にサービスが手に入る時代なのだ。親の医療も心配だけど、近隣の大きな病院とつながったモニターがあって、在宅診療ができるので助かっている。地元で暮らすと、サポートしてもらいやすいしサポートしやすい。これからも、ずっと北播磨で暮らしていこう。

● 私のアイデアが地域を創る (新たな働き方、若者のフロンティアの創出、移住・定住の促進)

若手のデザイナーや大工などが DIY・リノベーションやデザインアイデアを競う、「空き家再生プロジェクト お家リフォーム全国大会」が北播磨で開催された。優勝者には賞金 100 万円+大手企業とのコラボ権が与えられ、これまで多くの有名デザイナー・大工を輩出している。出展された作品は、現在の AI 技術を駆使した最先端の家から、趣のある古風な家まで様々あるのがおもしろい。さらに、これらのリフォームした空き家は、移住者向けに超低価格で販売され毎年全ての家が購入されるという人気ぶりだ。

● 生活も仕事もプライベートも全部充実! (移住・定住の促進、新たな働き方)

ずっと夢だった広告会社に就職できて都市部に住んだけれど、結婚を機に将来の生活を考えて出身の北播磨へ戻ってきた。幼少期に里山と田園の緑の中で家族と遊んだ記憶が忘れられなかったから。今では、人が密集している状況から解放されて、自然の豊かさと住環境の調和がとれたスローな生活がとても気に入っている。休日はアウトドアやドライブが気軽にできるし、子連れでどこでも躊躇なくおでかけできるし、渋滞も少ない。都市部の同世代の友人からはとても驚かれるけれど、庭がある広いマイホームまで手に入れた!おかげで、のびのび快適に暮らしている。今は、マーケティングの経験を生かして店舗運営や起業の不安を解消するコーディネーターをしている。近々オープンする古民家カフェやサロンは私のクライアント。地域で起業する女性が増えたら嬉しいな。

● 私は地域何でもお助けコンシェルジュ (地域の絆の醸成)

今日で移住からちょうど3年。お助けメンバー登録してもらった地域の人に協力してもらいながら、高齢者の方の家事代行やドローンでのサブスク配食、ベビーシッター等の事業も軌道に乗った。メンバーには地域電子通貨ポイントで支払い、定期的開催する三世代交流イベントの参加費などに使ってもらう仕組み。地域の役に立っている実感があって充実。地域の人からお嫁さんの紹介もひっきりなしに来てうれしい悲鳴の毎日。

● 地域住民でワンコインの助け合い（地域の絆の醸成）

昔は車がないと買物に行くのにもひと苦労だったけれど、ワンコインで買物代行から送迎や小さな困りごとまで解決できてとても便利。なんたって、近所に住んでいる住民同士で助け合っている。買物を安心して頼めるし、自分ができるときにはちょっとした小遣い稼ぎにもなる。依頼は「お助けアプリ」を使って気楽にできるし、依頼の振り分けもアプリが適切に振り分けてくれるからトラブルも起きない。助け合いした者同士で仲良くなって新しい友達もできた！

● 空から配達。荷物がすぐ届いてとっても便利（生活利便性の向上）

2人の子どもの子育て中。買い物は、ネット通販を利用することが多い。大きな荷物でも翌日には配達されるからとても便利。今は、ドローンを使い空から新鮮なスイーツや食材までも配達してくれる。現地に行かなくても早く商品が届くなんて、近くにお店がなくなっても都会とあまり変わらない。北播磨に帰ってくる友だちがいるかもって思っただけで、そわそわしてしまう。

● 移住したくなるまち（移住・定住の促進）

北播磨に住んで1週間が経った。移住のきっかけは子どもが生まれたことだ。子育てのために自然豊かな街への転居を考えてのこと。大阪での移住相談会に参加した時に気になった北播磨地域に行ってみると、大阪から1時間程度と想像以上に近く、自然の中でも高度な移動通信システムが整備されていることに驚いた。大阪からの移住で不安なことも多かったが、行政側のサポートもあり、思いのほかスムーズにことが進んだ。子どもと自然の中でキャンプをしながら、テレワークも可能になると思うと、これからの暮らしに期待が高まる。

★あなたの北播磨 2050 年のライフデザインを書いてみませんか★

リードする！ 産業の未来を切り拓きます



北播磨の宝である地場産業を元気にし、最先端技術を使った新しい産業や新しい農業の萌芽の場にします

皆さんがデザインする、北播磨 2050 年の
生活シーンの日記を覗いてみました。
その一部をご紹介します～。

● 北播磨がリードする未来、い〜らし (テクノロジーの活用)

今日は、北播磨の広大な土地と穏やかな上空の気流、そして南北に流れる加古川、この広い空間を生かした人を運ぶ空飛ぶクルマの実証実験が行われると聞いたので見に来た。実際に来てみて驚いたことは、この地域の水道の蛇口は、AI(人工知能)搭載のドリンクサーバーになっていた。コックをひねったら私の生体情報に最適化した北播磨の新鮮野菜ジュースや季節の果物ジュースなどを、ブレンドして出してくれる! ほんとうに驚いた。

● World wide City Kita-harima (テクノロジーの活用、地場産業の活性化、新しい産業・雇用の創出)

今日から、1 週間ほどの月への宇宙旅行を楽しんでいる。今回の旅行は、宇宙飛行士(パイロット)の息子が初フライトということで招待してもらった。今朝は北播磨地域で唯一の宇宙船発射場所の鶉野宇宙ステーション(旧:鶉野飛行場跡地)から月へ出発した。今回の宇宙船、実は播州金物(播州三木打刃物や播州刃物など)の素材や技術の応用から生まれた日本初・完全 100%国産の宇宙船で多くのメディアに報道されていた。

この影響から友人の播州刃物工場では注文の電話が鳴り止まないと言う。播州金物の技術の応用が、北播磨に一大産業を築きあげ、雇用の創出に貢献しているらしい。そんなことを思っていたら、あっという間に月に到着していた。今日はゆっくり寝て、明日の無重力テニスに備えよう。

● 月旅行から火星旅行へ (テクノロジーの活用)

宇宙ホテルが打ち上げられ、月旅行を楽しむ人も増えてきた。月の上を歩いたり、スポーツを体験したり、感動の連続。でもなんといっても月から見た地球の美しさには大感動!!ぜひもう一度見てみたいなー。でも、火星にも行けるようになったし、次は火星旅行に挑戦しようかな。

● 播州織はサステナブル・エシカルファッション（地場産業の活性化）

播州織は、“自然との共生”の起源から根付いているマインドだ。播州織はサステナブル・エシカルファッションを牽引し社会から共感されるブランドになっている。私はマーケットインな生産体制を取り入れて、消費者の様々なニーズを把握しつつ適格な販路開拓によって良質なテキスタイルを世界に流通しようと考えている。現在は、他業種との連携も視野に海外大手インテリア業界の〇〇社のソファの張地として、最新鋭の織機で生産する高耐久な生地を開発を模索しているところだ。

● 地場産業の聖地（地場産業の活性化）

今日は、神戸から神鉄・JR 加古川線が連携した自動運転「北播磨 GoGo トレイン」に乗って『5月3日北播磨地場産業祭』に行った。とてもオモシロかった。小野市の播州そろばんを盛り上げる「そろばん脳トレ 100歳大会」では、100歳までの高齢者がパチパチとそろばんで計算していて驚いた！それに、三木市は「流行アニメの刀づくり聖地三木」なんだって。併せて西脇市の「太陽光発電を織り込む生地で光を放つ播州織テキスタイル」でアニメの光る衣装を自分用に作ったりしてとっても気に入った。おまけに加古川の闘竜灘川づり公園では、魚型水中ドローンを操作して、魚の群れに加東市特産の釣り針をたらず、鮎釣りまで楽しめた。北播磨の地場産業でリアルに楽しめた1日だった。

● 播州織が有名ブランドに（地場産業の活性化）

僕の好きなアイドルは、学校でも大人気！女子の間でもファッションを真似する人が多くて SNS も必ずチェックしている！！最近のお気に入りの洋服は、なんと播州織のブランドなんだって。彼女が着ているとすぐに売り切れてしまうみたい。実は、僕の実家は、播州織の生地を織っているんだ。すごいでしょ。

● 北播磨ビジネス（新しい産業・雇用の創出）

北播磨医療センターに併設されている産業団地には、各国の研究機関が集積されていると聞いたから来てみたけどすごい。空飛ぶクルマの管制センターが設置されていて、空飛ぶAI(人工知能)ロボット救急車が飛んでいた。自動運転の遠隔制御技術や空間情報科学の開発、解析技術の研究機関などの人材需要があり、海外や国内からの研究者であふれている。

● 北播磨は新しい農業で生き生きできる場所(新しい産業・雇用の創出)

北播磨では、高校や大学と連携した地域資源活用事業が構築されている。地域の自然や環境、農業の資源を活用した事業で地元雇用が生まれ、それを核としたツーリズムで賑いも生まれている。私は、高校在学時の農業体験学習がきっかけで地元就職して、今では北播磨の山田錦育成スマート農業に携わり、水路の自動給水や、ドローンによる減農薬栽培、データを解析して行う精密農業、新規就農者へのノウハウ継承など、IoT(モノのインターネット)を活用した生産管理を担当している。生産性が飛躍的に向上し、少ない人員でも生産を維持でき、地元へ貢献できることが誇らしい。なにより、かつての農業=カ仕事というイメージはなくなり女性の私でも問題は無く、得意の理工系の知識を活かしつつ自然豊かな地元で働けることがうれしい。

● 副業の楽しみ (起業・副業の促進)

私は公務員として、福祉関係の業務に取り組んでいる。学生時代から絵を描くのが好きで、地元、北播磨の風景画を SNS に投稿してきたけれど、なんと、絵本の挿絵にイラストを使わせてほしいとの依頼がきた。今では誰でも平等に副業の機会がある。趣味を仕事にできるとは思ってもみなかったが人生挑戦だ。少しずつ出来る範囲で楽しんでやってみたい。
(※地方公務員法が改正された場合の想定です。。。)

★あなたの北播磨 2050 年のライフデザインを書いてみませんか★

また来たい！ 「オモシロイ」で集います



のどかな田園風景の中でのサイクリング、歴史文化資産の探訪、ドローンでの空中散歩が楽しめるなど、北播磨ならではの“オモシロイ”で人を惹きつける地域にします

● 北播磨癸～リアル水田生態系観察(仮称)ツアー～(北播磨らしい観光交流資源)

この水田の地下が水族館になっていて、見上げると透明なガラス越しに水田の底を観察できる。希少価値のある動植物がいっぱいだ。特にミクロの水中微生物の活癸な動きは、拡大レンズ付きのガラスなので肉眼で観察でき、普段は見る事ができない光景だ。水田の生命力に接してみるとワクワクして、今から秋の実りが待ちきれない。

● 限界を超えた先に...北播磨 (北播磨らしい観光交流資源、観光モデルコースの設定)

朝起きたら、体中筋肉痛で起き上がれない!昨日は、朝早く神戸を出て「北はりマラソン2050」に出場した影響だ。SUGIHARAPAPER World Science University(旧杉原紙研究所)スタートの北播磨が誇る老舗温泉旅館ゆひか(旧白雲谷温泉ゆひか)がゴールとなる全長100kmのウルトラマラソンで、北播磨の自然を活かした起伏に富んだ超上級者向けのコースだ。スタート・ゴールはもちろん、途中のエイドステーションが鷺野国際空港(旧鷺野飛行場跡地)、あのハリウッド映画のロケ地となった闘竜灘や、播州ラーメンパーク(西脇市)などマラソンと観光の両方を楽しめた。後から聞いた話だが、リタイアした人達は気球でゴールまで輸送されたらしく、少し羨ましい気持ちになった。また惜しくも逃したが、優勝者には、神戸・三ノ宮のおいしんぼタワー(旧おいしんぼ館・元町)にゴール記念パネルが展示され、タワー内の宿泊費・おみやげ代・飲食・アトラクション等の全てのサービス1日無料券が贈呈されるということで、とても悔しい。神戸に居ながら北播磨を体験できるこの施設には、筋肉痛が落ち着き次第行ってみたい。そして今度は観光だけの目的で北播磨に行ってみよう。

● 北播磨の子ども狂言(北播磨らしい観光交流資源、歴史文化資源の継承)

北播磨地域の子ども達が演じる、播磨国風土記の「根日女の恋物語」を再現した新作狂言が東京でホログラム公演されていて、今人気になっているんだって。

なぜって、地元の加西フラワーセンターにある野外舞台は、花に囲まれた素敵な舞台で、あの有名な狂言師が指導するので、とても格式高いリアル狂言と評判だ。だから、加西での公演をホログラムで透視して全国公演しているんだって。普段の練習の様子も見てみたいと、全国の狂言をする子ども達からあこがれの的のようね。おかげで、兵庫県の北播磨地域は全国の子ども達から、リアルに行ってみよう NO1になっているらしい。

● 北播磨歴史アニメアプリが観光ガイド! (歴史文化資源の継承)

北播磨の歴史資源をつないだストーリーがアニメ化され話題沸騰。私も「北播磨アニメアプリ」をインストール。行きたい箇所を選択すれば、好みに合わせた移動手段(電車・モビリティ・サイクリング)で、アニメのシーンとリンクする光景に連れて行ってくれた。アニメの聖地が見られて今日は大満足。

● お化け廃校体験 (空き家等の活用)

北播磨の古民家(空き家)で宿泊するゴルフ合宿に参加。古民家でほっこりする時間も束の間、夜の「お化け廃校体験」の時間に! 昔ながらの校舎内は恐怖で一杯、リアルに絶叫した。非日常的な体験にあふれた合宿であった。(笑)

● まるごと北播磨のおもてなし (空き家等の活用)

北播磨の点在する古民家(空き家)を客室や、レストラン、カフェ、播州織雑貨店、農作業・地場産業体験施設、ビール醸造所、酒蔵などにリノベーションしたまちを、“北播磨の宿(しゅく)”と言うんだって。そこには、移動手段を手軽に乗り換えられるステーションがあるから、店から店をサイクリングしながらショッピングしたり、川で釣りをしたり、自動運転車などで気の向くままに巡ることができるよ。県外から大勢の人が来て北播磨を満喫しているんだって。

● 北播磨の楽しみ (空き家等の活用)

私は週3日間、都会のテレワーク室でこもりっきりの生活をしている。残りの週4日は、北播磨にある古民家に自由に移り住むサブスクリプション(月額課金)サービスを利用して、リアルな自然に触れるために家族で滞在しているんだけど、たまにはここからテレワークもしている。今日は、近くの小川で見たことがない魚や、昆虫を見つけて子どもたちが大はしゃぎ。夜は螢が乱舞し、時折吹く涼しい風がこちよい。なんと言っても、ここで採れた新鮮な野菜と川魚のバーベキューは最高!また、黒田庄和牛のすき焼きは肉の旨みが絶品だった。ご馳走と共に地元産の日本酒を飲みながら、手に届きそうな星空を眺める「こちよいくらし」を北播磨で満喫している。

● 空き家や廃校が地域の交流場所に（空き家等の活用）

私は今、大阪で生活している。最近、北播磨にも空き家や廃校をリメイクしたカフェや博物館などが増えてきているそうなので、久しぶりに実家に帰ったついでに見てきた。私が通っていた小学校の教室がお店にリメイクされていて、人気のようだ。駐車場には小型モビリティや他府県ナンバーの空飛ぶクルマもいっぱい。その中のカフェで友達と待ち合わせ。メニューを見てびっくり。大好きだった給食のメニューがずらり。どれにしようかな。実家に帰る機会が増えそうだな。

● 観光資源の見える化と最適化されたモデルコース(観光モデルコースの設定)

(神戸から日帰りでパワースポットに行きたいな…。)

ネットで検索すると、「北播磨ってこんなところ」とここにしかない選りすぐりのスポットを紹介するサイトを見つけた。国宝建造物がたくさんあるけれど、日本遺産の播州清水寺が気になる。全く知らない土地だから具体的な旅のイメージができなかったけど、モデルコースはAI(人工知能)が最適なプランを提案してくれたから安心だ。私好みのグルメと自動運転自動車で巡れるスポットを繋げて夕方までには帰ってこれそう。高速道路を使うと便利な場所だし、都市部からも昔ながらの特急「北播磨トレイン」に乗ればスムーズに自動運転神姫バスと連携しているみたい。他にはどんな観光資源があるのか見てみよう。

● 素敵な北播磨の1日 (観光モデルコースの設定)

今日は北播磨地域ビジョン委員会の活動日。播磨中央公園のサイクリングステーションで観光に訪れたグループと出会う。天気もよくて絶好のサイクリング日和だ。

北は「闘竜灘」、南は「白雲谷温泉ゆびか」まで加古川沿いを私のおすすめポイントに立ち寄りながらサイクリングで案内した。自動運転機能も使って快適。観光客の“ありがとう”が私にとってかけがえのない喜びなんだ。

★あなたの北播磨 2050 年のライフデザインを書いてみませんか★

北播磨地域ビジョン 2050 概要



第1章 新地域ビジョン策定の趣旨

現行の全県ビジョンである「21世紀兵庫長期ビジョン」の策定から20年が経過し、社会潮流など本県を取り巻く環境も大きく変化していることから、2050年を展望した「新しい全県ビジョン」を策定することになりました。北播磨地域においても、“2050年の北播磨の姿”を描く「北播磨地域ビジョン2050」を地域の皆さんの意見を踏まえて策定することとしました。

〈北播磨地域ビジョンの策定経緯〉

2001 (H13)年2月 北播磨地域ビジョン
2011 (H23)年11月 北播磨地域ビジョン2020

目指すべき地域の姿『ひょうごのハートランド』

地域住民のハート及び兵庫県のハートにあたることを生かした、よりよい地域への願い

〈社会潮流〉

人口減少・超高齢化、自然の脅威、テクノロジーの進化、世界の成長と一体化、経済構造の変容、価値観と行動の変化

第2章 北播磨地域の現状(主な特性を抜粋)

地勢 気候 ・県のほぼ中心 総面積約896km ² 全県の10.7% ・県下最大「加古川」 中心に播州平野が 広がる美しくのど かな田園風景 ・温暖な気候により 県下有数の水田地帯	人口 ・全県人口の4.8%で 約26万4千人が居住 ・15～29歳の転出超 過が進むなど人口 が減少 ・一方、在留外国人 人口は直近5年で倍 増、約7,000人が居 住	自然環境 ・希少動植物が生息 する“あびき湿 原”や天然林、公 園等自然が豊か ・一方、不法投棄通 報件数が多いため 自治会とパトロー ル強化	「農」と「食」 ・酒米山田錦、黒田 庄和牛、播州百日 どりなどの特産品 ・新たな産地ブラ ンド高付加価値の 「プラチナぶどう」 新品種の黒枝豆 「ひかり姫」、兵庫 県オリジナルいち ご「あまクイーン・ 紅クイーン」など	防災 防犯 ・地球温暖化に伴う 風水害の激甚化や 南海トラフ地震を 懸念 ・自主防災組織、消防 団や、水田の貯水 機能が災害時に力 を発揮 ・SNS等を使った犯罪 が多様化	交通インフラ ・大阪等の都市部か ら車で約1時間 ・東西南北高速道 路網の結節点 ・一方、JR加古川 線、神戸電鉄粟 生線、北条鉄道 の利用者減少傾 向
少子高齢化 医療 ・65歳以上の高齢 化率32.8%(R3.2.1) 全県を上回る ・要介護認定者数が 大幅に増加 ・合計特殊出生率は 1.52(H27)	地域の絆 多世代交流 ・住民、高校生、行政が連 携し、交流、賑わいづく りなどの様々な地域活動 を展開 ・高齢化率40%以上かつ 世帯数50戸以下の小規 模集落が34集落(R元.9) ・今後、外国人住民との相 互理解等、協力が必要	子育て環境 ふるさと意識の醸成 教育 ・令和2年度の県民意識調査「心の 豊かさを育む教育や活動が行われ ていると思う」は全県で1位、 「子育てしやすいと思う」は全県 で5位 ・兵庫教育大学、県立教育研修所、 県立嬉野台生涯教育センター等、 兵庫の教育研究推進地	産業 雇用 ・製造業が集積 ・企業立地件数 59件(H28～R2) 全県の23% ・播州織、利器工 匠具・刃物、そ ろばん、釣針など地 場産業が発展	歴史文化 観光 ・国宝建造物や伝統 文化の杉原紙、鶴野 飛行場跡など ・フットパス・サイクルに 最適な地域 ・サイクルスポットの拠点と してBMXレース 等の自転車競技場 整備も予定	

整理

整理

第3章 北播磨の将来に対する地域の皆さんの思い

《主な意見を抜粋》

- ◇自然環境保全
 - ・京阪神ではコンクリートにアスファルト、点々と緑地。北播磨ではすぐ水田を目にし、初夏は緑の絨毯で彩る。食糧と防災のため水田を減らしてはいけない
- ◇多世代交流・多文化共生
 - ・子ども達のやりたいことが実現でき、地域の大人から学ぶ機会をつくる
 - ・多様な人にとって暮らしやすい共生社会を実現するには多様な人を受入れる意識改革が必要
- ◇地域・生活
 - ・若者の挑戦の芽を摘むことなく挑戦して失敗を許容し挑戦し続けられる地域であれば誇りになる
 - ・皆が幸せを感じられるような、「おかえり」といってもらえるような温かな場所
- ◇産業・雇用
 - ・空と陸をつなぐハブ機能(活動の拠点)による巨大物流ネットワークを構築し、新鮮野菜の流通の仕組みなどをつくり産業都市を展開する
 - ・アイデアがビジネスにつながる環境や、また地域貢献や新たな経験を目的に副業を始めるための、スタートアップ集積地へと展開する
- ◇歴史・観光
 - ・5市1町に点在する歴史的資源を、平和教育、環境教育、歴史教育、社会教育等に生かすため、各市町一体で資源の可視化等に取組み継承する

第4章 地域の方向性

持続可能な開発目標(SDGs)の理念を基に情報通信インフラの発達をはじめとして想定される近未来のデジタル化社会等を見据え誰も取り残さない社会を実現します

自然環境保全 <ul style="list-style-type: none"> ●自然環境(田園風景)の維持・保全 ●「農」と「食」の魅力づくり ●防災・防犯意識の向上 ●交通インフラの維持・整備 	き らめいて! 自然の恵みが楽しめる 豊かな暮らしを育てます
多世代交流 多文化共生 <ul style="list-style-type: none"> ●子育てしやすい環境の整備 ●多世代交流・多文化共生 (異文化交流・理解、外国人の活躍・協働) ●高齢者福祉・医療の充実 ●子ども世代のふるさと意識の醸成・教育 	た のしんで! 世代と文化を越え、誰もが 笑顔であふれます
地域・生活 <ul style="list-style-type: none"> ●新たな働き方、 若者のフロンティアの創出 ●地域の絆の醸成 ●生活利便性の向上 ●移住・定住の促進 	は つらつと! 「べっちょない精神」で つながります
産業・雇用 <ul style="list-style-type: none"> ●テクノロジーの活用 ●地場産業の活性化 ●新しい産業・雇用の創出 ●起業・副業の促進 	リ ードする! 産業の未来を 切り拓きます
歴史・観光 <ul style="list-style-type: none"> ●北播磨らしい観光交流資源 ●歴史文化資源の継承 ●空き家等の活用 ●観光モデルコースの設定 	ま た来たい! 「オモシロイ」で 集います

田園の恵みが生み出す「こごちよい」未来の暮らし
 ～ひょうごのハートランド・北播磨～